

PMI 日本支部

アニュアルレポート 2017



WHAT IS PMI?

PMIとは

米国防総省が国防、航空宇宙など大規模プロジェクトを管理するためにマネジメント手法を体系化したのが始まりとされるプロジェクトマネジメント。その後、製造・建設・エンジニアリング・化学産業等への展開を経て、プロジェクトマネジメントを職業とする職業人団体として1969年に米国ペンシルバニア州フィラデルフィアのとある民家のダイニング・ルームから始まったのがPMI(Project Management Institute)でした。

PMIがまとめたプロジェクトマネジメントの知識体系「PMBOK® (Project Management Body of Knowledge) ガイド」は、1984年のプロトタイプ版を基とし初版出版は1987年。その後もボランティアの献身的な作業により4年ごとに改訂が繰り返され、現在の最新版は2017年の9月に発行された第6版となっています。

世界標準となった「プロジェクトマネジメント」は、世界中のさまざまな分野で実践されています。

CONTENTS



2	PMIとは	12	海外 kongress
3	PMI日本支部とは	13	JISA PM コミュニティへの支援
4	会長メッセージ	14	中期3か年計画
5	PMI日本支部の組織	16	PMI標準
6	2017年のトピックス	18	プロジェクトマネジメントの動向
6	日本フォーラム2017	20	会員向けサービス
8	Japan Festa 2017	20	個人会員制度
10	新会員オリエンテーション	22	法人スポンサー・プログラム
10	リーダーシップミーティング2017	23	行政プログラム

PMI JAPAN CHAPTER

PMI日本支部とは

1998年、PMIの日本国内唯一の支部として「PMI東京支部」が設立されました。その後、2009年に「一般社団法人PMI日本支部」と名称を変え、国内におけるプロジェクトマネジメントの普及を目的に、さまざまなステークホルダーと共に活動し、2018年には20周年を迎えます。

その「協働」は、会員ボランティアや法人スポンサーに支えられつつ、各種イベントや研究会の開催、PMI出版書籍の日本語訳・販売等を通じて、会員の方々ご自身のPMスキルの研鑽につながっています。また、プロジェクトマネジメント、プログラムマネジメント、ポートフォリオマネジメント、そして近年注目を浴びているビジネス・アナリシスなどの手法の啓蒙へと活動の質的拡大も続けています。



24 アカデミック・プログラム

26 **各種セミナー、ワークショップ**

29 **部会活動**

29 首都圏中心の支部会員による活動

33 関西ブランチ所属支部会員による活動

35 中部ブランチ所属支部会員による活動

35 法人スポンサー社員による活動

37 **情報発信**

37 ホームページ

38 ニュースレター

38 メールマガジン

38 Facebook

39 **販売図書**

40 **決算報告**

41 **理事・監事名簿**

42 **スポンサー一覧**

会長メッセージ

PMI日本支部の皆さまへ

日頃、PMI支部活動へのご参加・ご支援をいただき誠にありがとうございます。日本経済も鈍いながら着実な回復の動きを示していますが、日本を取り囲む政治・経済の環境は、益々激変しております。また、異常気象や噴火・地震も常態化しているのではないかと懸念されるこの頃です。

近頃、PMI本部からは、毎年のように新たな戦略や標準類が発表され、激変するビジネス環境に先手を取るよう積極的な情報発信がされております。

さて、2017年度の支部会員数は、わずかながら増加傾向を維持しており、将に4000人の大台を目前としております。7月の日本フォーラムや11月のJapan Festaもおかげさまで成功を収めることができました。また、昨年に引き続きリーダーシップミーティング2017で、PMI日本支部の状況・課題を部会リーダーの皆様と共有いただくことができました。

PMI東アジアの中で、中国、香港、台湾、モンゴルの各支部や、PMI Global Operation Center との交流や協業も、

引き続き実施させていただきました。さらに、国際連携委員会では、インドネシア支部やインド・ムンバイ支部のイベントへの参加を実現しました。会員の皆さまや、法人スポンサーの皆さまには、これらの友好関係を、PMI日本支部が提供できるグローバルなネットワークとして、皆さまにも是非ご活用いただきたいと考えております。

2017年は、新しい3ケ年の中期計画の初年度にあたります。この新しい中期計画に基づき、年度内での予算策定を実施しました。また、中期計画の定期的な点検も実施しました。この中期計画を着実に実現し、皆さまに価値のあるサービスをご提供させていただきよう、理事、委員会、事務局が一体となって邁進していきます。

関西、中部各ブランチの活動を通して皆さまへのより身近な地域向けサービスの拡大や、新標準の展開、公共機関や教育機関への貢献、社会的なプロジェクトへの取り組みをしております。部会を通じて活動成果の周知・展開など、会員の皆さまがより充実した活動ができるよう、引き続きご支援をしていきたいと思っております。また、ホームページやイベントの会場など、できる限り多くの機会に日本支部の活動を皆様にご紹介させていただきたいと思っております。特に、2017年11月のFestaでは、インターネットを介して、講演をLiveでご覧いただく試みをいたしました。この成果を踏まえ、皆様には地域にとらわれず、できる限り均等なサービスをご提供することを目指してまいります。

法人スポンサーの皆さまには、各種セミナーなどの特典や、皆さまによる自主的な勉強会(Study Group)活動などを支援させていくとともに、PMI日本支部の持つグローバルなネットワークも是非ご活用いただければと思っております。

研究会活動は、会員皆さまにとって研鑽の場、情報交換の場、経験豊富なPM同士の交流の場、あるいは日頃の研究成果の発表や疑問の解消の場として、お役に立つものと確信しております。

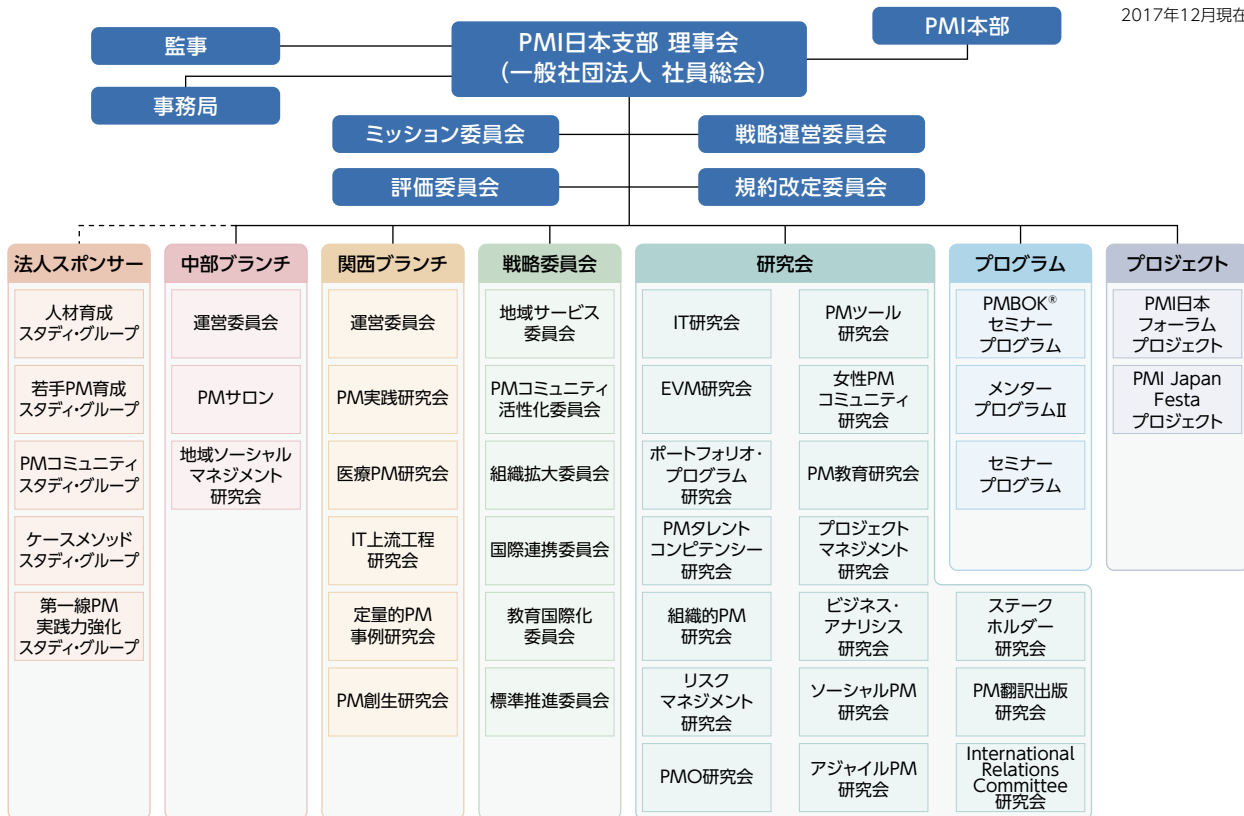
毎回申し上げていることではありますが、当レポートをご覧いただければ、PMI日本支部の広範にわたる活動が、会員皆さまの自主的な活動に支えられ、展開されていることに実感していただけると存じます。PMI日本支部は、会員皆さまの個人としての貢献、献身によって支えられている団体です。引き続き、会員の皆さまには、積極的に活動にご参加いただきますよう、また非会員の皆さまには、これを機会にぜひ入会をご検討いただきたく、よろしくお願いいたします。



PMI日本支部 会長
奥澤 薫

組織構成

2017年12月現在



ミッション委員会

ミッション委員会の主な役割は、中期計画を策定し理事会に上程することおよび、各種の支部活動が支部ミッションに則しているかモニタリングし、必要に応じて是正処置を理事会に提案することです。

2017年は、日本支部2017-2019中期計画の最初の年でした。戦略委員会等に中期計画に対する進捗報告を求め、計画見直しや支部としての追加アクションの必要性を検討しました。その結果をまとめ、2018年度に向けた課題を年末の理事会に報告しました。

戦略運営委員会

戦略運営委員会は昨年度までの企画委員会を改組したもので、日本支部の施策の円滑な遂行のために、支部年次計画の立案調整、執行支援、各委員会の施策の具体化の理事会への付議の判断を行います。また委員会、研究会、プログラムおよびプロジェクトの運営状況を把握し、必要な調整を行い、計画実現のための課題を把握し、必要な対応策を理事会に進言します。

2017年は戦略運営委員会の本格稼働に向け、上記目的の通常活動に加え、ミッション委員会と連携し委員会再編に向けての取組の円滑な検討、調整支援、新委員会の機能検討、規程の改訂等を行いました。

評価委員会

評価委員会は、事務局長を含む事務局職員の給与・賞与について、事務局長の提案を受けて、同様な非営利団体の状況、日本支部の財務状況、職員間のバランス・貢献状況などを勘案して理事会に提案します。また、会員・部会表彰の選考を行い、理事会に提案します。2017年は、事務局職員の賞与、一部職員の昇給を答申しました。

規約改定委員会

規約改定委員会は、日本支部の諸規定の起案・改定・所管案策定を行い理事会に承認を求める機関です。また、部会・委員会が起案・改定した諸規定の整合性を担保すべく、部会・委員会と協議後に理事会に付議し承認を得ます。2017年は、主に機構改革を最終的に反映する諸規定の見直しを行いました。

監事

監事は、支部会員の負託を受けた独立機関として理事・事務局の職務執行を監査することにより、さまざまなステークホルダーの利害に配慮しつつ日本支部の健全で持続的な事業と目的達成を担保します。2017年は、定期的な内部監査の実施と、2016年決算の監査を行いました。

2017年のトピックス

日本フォーラム 2017

日程 2017年7月8日(土)、9日(日)
場所 学術総合センター(一橋記念講堂)
テーマ 「CHANGE & INNOVATION」
 - 社会価値の創造に向け -
セッション 69セッションを実施
基調講演 PMI日本支部会長 奥澤 薫氏
 PMI Region9 Mentor 神庭 弘年氏
 PMI日本支部理事 鈴木 安而氏



日本支部は、一般、会員、企業エグゼクティブ、企業管理者に対しプロジェクトマネジメントの最新動向、事例および日本支部の活動を広く知っていただくべく、プロジェクトマネジメントの広範な啓発活動を実施しています。

そのひとつとして、日本支部における年間最大の啓発活動である「PMI日本フォーラム2017」を、「CHANGE & INNOVATION - 社会価値の創造に向け -」をテーマに、2017年7月8日(土)、9日(日)の両日、東京都千代田区にある学術総合センターにおいて開催しました。今年も猛暑の盛りの開催でしたが、参加登録受け付け開始直後から多くの皆さまからお申し込みいただき、延べ1,500名を超える方々の参加を得て盛況のうちに閉幕しました。

招待講演ではさまざまな外的環境の変化が急激に起きている現代で、経済成果をとめない社会に役に立つ



新しいことを起こすためにどうすればよいのか、上記のテーマにそって10人の国内外の幅広い分野の識者から2日間にわたり、それぞれの立場で示唆に富む講演をいただきました。

なお、大会場での基調・招待講演については全て日英同時通訳付きの講演としました。

基調・招待講演で ご登壇いただいた方々

① PMI日本支部のこれからの3年と日本フォーラムからのメッセージ 奥澤 薫氏 PMI日本支部 会長	⑦ なにが変わっているのか? 倉重 英樹氏 株式会社シグマクス 代表取締役会長
② PMロールモデルの変化 ~求める人材をどう育成する~ 神庭 弘年氏 PMI Region9 Mentor	⑧ プロジェクトマネージャーのためのパフォーマンス学入門 佐々木 順子氏 ザルトリウス・ジャパン株式会社 社長
③ PMI 標準の動向と「PMBOK®ガイド」第6版について 鈴木 安而氏 PMI日本支部 理事	⑨ 「未知」と向き合うプロジェクトマネジメント 林 千晶氏 株式会社ロフトワーク 代表取締役
④ 2017 Pulse of the Profession: Value of Project Management Mark Dickson氏 PMI本部 会長	⑩ IoT デモクラシー SORACOMの挑戦 片山 暁雄氏 株式会社ソラコム 執行役員
⑤ 政府情報システムにおけるガバナンス・プロジェクトマネジメントの課題と今後 大平 利幸氏 内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略室 参事官補佐	⑪ バイモーダルITとは? ~デジタル・トランスフォーメーション時代を生き抜くために~ 最上 千佳子氏 日本クイント株式会社 代表取締役
⑥ 加速するAIとIoT時代を生き抜くために ~新しい価値創造を実現する働き方・学び方 村上 憲郎氏 村上憲郎事務所 代表取締役	⑫ OT×ITがもたらす社会へのインパクト 中村 輝雄氏 株式会社日立製作所 サービスプラットフォーム事業本部 シニアテクノロジー エバンジェリスト
	⑬ 私たちの夢、楽しくて儲かる農業を目指して 黒柳 俊之氏 株式会社国際農業開発 代表取締役社長

アカデミックトラックでは、PM教育裾野拡大実践教育の例、産学地域国際連携、日本支部のアカデミックプログラムなどの取り組みの紹介など10のセッションを設け、各教育機関が抱える課題について相互に発表・意見交換を行う場を提供しました。



グローバルトラックでは、海外の各支部などから6人を招聘し、各々の立場からプロジェクトマネジメントなどに関する興味あるお話をネイティブな英語で講演いただきました。



グローバルトラック

各テーマ別トラックは、日本支部各部会、法人スポンサースタディグループ(SG)による日頃の研究成果の発表の場です。PMIがグローバルに推進している「PMBOK®ガイド」、ポートフォリオ/プログラムマネジメント、リスク・マネジメント、組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル、プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系、そしてソーシャル・プロジェクトマネジメント、アジャイルなどに関連した講演が22の部会・SG、32

のセッションで実施されました。



分科会

昨年に引き続き大阪市淀川区に、また新たに名古屋市中村区にもリモート会場を設け、基調招待講演をリアルタイムで聴講いただけるコースを提供し、各会場とも多くの参加者で盛り上がりました。



大阪会場（新大阪駅近傍） 名古屋会場（名古屋駅近傍）

また、17社のスポンサー企業のご支援もあり、協賛はじめ多様な展示のほか、企業からの講演も行っていました。



フォーラム、Festaボランティア 古澤 孝宏

COLUMN

私は2016年よりフォーラムと Festaのボランティア活動をしています。

ボランティア活動のきっかけは、スタッフが着ている青のポロシャツを一度着てみたいという憧れからだけでした。

実際にボランティア活動をしたところ、会長以下全ての方から家族のように接していただけること、多くのボランティアメンバーが長くかつモチベーション高く続けられていること、加えて全員が優しく話題も豊富で一緒にいると楽しい時間があっという間に過ぎていくことに驚きました。

こうした情熱があるからこそ、演壇に立つ方の思いや信念を参加していただいた皆様に伝えられるのでしょう。

そのメンバーの一員である事を誇りに思い、これからも精一杯活動していきます。

2017年のトピックス

Japan Festa 2017

日 時 2017年11月11日(土)、12日(日)
場 所 芝浦工業大学豊洲キャンパス交流棟 大講義室
テーマ Managing uncertainty

～ 未知の領域においても志高いプロジェクト・マネジャーに ～



2017年11月11日(土)、12日(日)の2日間にわたり、芝浦工業大学豊洲キャンパスにて、PMI Japan Festa2017を開催しました。今年度は、多くの方に参加いただきたいとの考えから会場を都心に移すとともに、新たな試みとして国外や地方在住の方も聴講いただけるようリアルタイムのオンライン中継を実施することで、延べ800人以上の方々の参加を得て成功裏に終了しました。



Japan Festaの大きな特徴として、タレントトライアングルでいえば、Strategic & Business Management および Leadershipに関連する講演に重点を置いていることがあげられます。参加者の方々のプロジェクト・マ

ネジャーとしての実務経験に関わらず、今後の業務のパフォーマンス向上に結びつくような有意義な講演を提供できるよう企画しています。



講演の様子

2017年のテーマは「Managing uncertainty ～ 未知の領域においても志高いプロジェクト・マネジャーに～」と設定し、未知の、あるいは不確実性が高い分野においてプロジェクトを成功に導くために業務に取り組み、成果を出された方々にご講演いただくこととしました。講師の方々の所属業界は農業、IT、土木、機械、興行、

8講演の登壇者とテーマ

11月11日(土)	11月12日(日)
[1] 泥にまみれる ～ 富士通の農業クラウド開発プロジェクト～ 渡辺 浩司 様 富士通(株) イノベティブIoT 事業本部 Akisai 事業部	[5] UPDATE MOBILITY ～ 自動運転に挑むSBドライブの取り組み～ 上村 稯 様 SBドライブ(株) 取締役
[2] 『Red Bull AIR RACE CHIBA』 ～ 厳格な日本の規制の中、なぜ開催できたのか?～ 河野 眞二 様 (株) エアレース・ジャパン 取締役社長	[6] 変化し続ける組織のプロダクト戦略史 ～ 経理の自動化から始まった ビジネスプラットフォームへと続く道～ 鈴木 一也 様 free(株) プロダクト戦略本部長
[3] 富士フィルムのイノベーション 柳原 直人 様 (株) 富士フィルム 執行役員 イノベーション戦略企画部管掌	[7] 日本発の民間月面探査チーム 「HAKUTO」の挑戦とレース後の展望 袴田 武史 様 (株) ispace 代表取締役&ファウンダー
[4] 世界初を生み出すセブンドリーマーズ 全自動衣類折りたたみ機 ーランドロイダー への挑戦 阪根 信一 様 セブン・ドリーマーズ・ラボラトリーズ(株) 代表取締役社長	[8] インドネシア・ジャカルタ市内での高速道路建設工事 ～ 落下傘部隊の奮闘記～ 大西 陽子 様 (株) 大林組 土木本部 本部長室 企画課長



質疑応答

宇宙関連事業とバラエティーに富んでおり、また事業規模もベンチャーから一部上場企業と幅を持たせるようにしました。結果として、トピックも多岐にわたり参加者の方々にとって有用な知見を一つでも多く共有できる機会を提供できたのではないかと考えています。

例えば、プロジェクトを成功させたいとの強い情熱や、ステークホルダーとの良好な関係の構築といったプロジェクト・マネジャーとしてのスキルがプロジェクト推進において非常に重要であるというメッセージがありました。さらに、5~10分程度ではありますが、質疑応答の時間を設けることで、聴衆の疑問を一つでも多く解決できるよう心がけました。参加者の方々の受講完了報告(アンケート)結果から、講演内容に関しては非常に高い評価を得ることができました。

2017年のJapan Festaの大きな特徴として、日本支部として初めて全国向けに同時中継配信サービスを実



同時中継用機材とスタッフ

施したことが挙げられます。これは、国外や地方在住の方はもちろん、首都圏近郊にお住まいの方を含めて、PCやタブレット端末、スマートフォンさえあれば誰もが自宅で聴講いただけるものです。

2日間で延べ240人を超えるの方々にご利用いただき、「東京までの交通費と時間が節約できた」、「所用で自宅を離れることが出来なかったのに、PCによる受講は助かった」などのコメントが寄せられました。

また、Japan Festaでは参加者同士の交流も重要であると考えており、1日目の夜は同キャンパスの学食フロアにて交流会を開催しました。2017年度は5名の講師の方々にも参加いただくことができ、講演では話すことのできなかつたエピソードを楽しくお話くださるなど、講師の人となりを知ることもでき有意義な時間となりました。総勢80名にのぼる参加者によるざっくばらんな交流で、高い満足度評価をいただくことができました。



交流会

Japan Festaは日本支部が開催するセミナー・イベントとしては日本フォーラムに次ぎ開催規模が大きいものですが、企画および運営は、部会活動のひとつであるセミナープログラムのボランティア・スタッフによって全て進められています。昨年度の改善点も踏まえ、テーマ設定、講師選定から始まり、約10ヶ月の周到な準備期間を経て開催しています。



ボランティア・スタッフ一同

2017年のトピックス

新会員オリエンテーション

新しく日本支部に加入いただいた個人会員の皆さまを対象に、東京で4回、大阪で1回、計5回のオリエンテーションを実施しました。

この施策はNA-LIMにて他国の支部が実施しているとの情報を得て、日本でも展開することとしたものです。



毎月多くの方々が新規入会されていることから、PMI本部、日本支部、部会活動などをご理解いただく機会を設けて、会員価値を最大限に活用していただくことを目的としています。

当日は45分のコンパクトな説明と15分のQ&Aタイムに続き交流会を設定しています。これは理事、事務局、ボランティアを含めたオープンなコミュニケーションの場となっており、毎回高い評価をいただいています。

2018年度は新たに名古屋でも開催を予定しています。



セミナープログラム 大村 美千子

COLUMN

私はPMP取得と同時にPMI日本支部へ入会しました。

当然ながら支部活動については、全く分からない状態でしたが、新入会員向けオリエンテーションでは、活発な部会活動の様子が具体的に紹介され、運営も自主的になされていることに驚きました。

オリエンテーション後の交流会は1人で参加する不安もありましたが、理事や部会の皆さんが暖かく迎えてくださり、打ち解けた雰囲気の中で部会の様子をさらに深くお聴きすることも出来ました。

オリエンテーションをきっかけに早速某部会への参加を決め活動を始めましたが、部会メンバーとの直接交流、同じ目的に向かってのボランティア活動はとても刺激的で楽しいです。

リーダーシップミーティング2017

2017年9月2日(土)と3日(日)の2日間、東京都調布市にあるNTT中央研修センターを会場に、日本支部の各部会リーダーやアクティブメンバー、会長・理事・監事、PMIアジア・パシフィックからの参加者総勢65名を一堂に会した「PMI日本支部リーダーシップミーティング2017」を開催しました。

今年で3回目になるこの会議は、戦略委員会のひとつ、

PMコミュニティ活性化委員会(委員長 当麻哲哉理事)が中心となってボランティア・チーム「LM2017運営チーム」(リーダー 伊熊昭等氏)を結成して企画、運営されたものです。各部会(委員会、研究会、ブランチ、プログラム)から、リーダーやアクティブメンバーが2名ずつ参加し、今後のPMI本部や日本支部のビジョンと方向性、施策などを共有したり、参加者のリーダーシップ育成を目指

したワークショップを行ったりすることで、よりアクティブな部会活動を促し、PMコミュニティを活性化することが目的です。

1日目の会議では、PMI アジア・パシフィックからのゲスト、Chevon Low氏より、PMI本部の今後の活動方向について「PMI Global Updates」と題して平易な英語スピーチ、それに続き神庭弘年監事より「BRM (Benefits Realization Management) についての解説」、端山毅副会長より「PPPM (Project, Program, and Portfolio Management) 普及展開に向けた課題と対策」のスピーチがあり、ワークショップで議論するための重要な事前情報が提供されました。



PMI AP Chevon Low氏のスピーチ

その後、リーダーの人材育成を兼ねたワークショップ「部会活動活性化のために ～デザイン思考からBRMへ～」を行いました。今回は、ソーシャルPM研究会の方々に絶大なるサポートをいただき、部会活動活性化のための「やりがいのある部会」を考える手法として、ロジックモデルの適用を学びました。ゴールイメージ(ビジョンステートメント)の策定、ビジョンから長期／中期アウトカムへの展開、活動内容のリストアップ、活動内容からアウトプット、短期／中期アウトカムへの連鎖、ベネフィットリストの作成、ステークホルダー毎のKPI設定という順にグループワークを行い、1日目のまとめとして各チームの部会運営ロジックモデルを共有しました。

2日目は、1日目に学んだ手法をもとに、1年後の短期アウトカムから夢のある将来像までを考え、締めくくりとして各グループの検討成果を、即興による「寸劇(スキット)」(5分間)で表現する形式の発表が行われました。昨年からはじめた寸劇によるプレゼンテーションは、LMの恒例行事のようになり、たいへんな盛り上がり



寸劇の一幕


見せました。

LMは、日本支部のPMコミュニティをより一層活性化させるための毎年恒例のイベントとして、今後も発展していくことが期待されています。



参加者 集合写真

COLUMN



組織的PM研究会 河々谷 健一

2017年リーダーシップミーティングに運営スタッフとして参加しました。過去2回は部会代表として参加しましたので、今回が3回目となります。今回は準備段階から数多くの打合せ、ワークショップの企画・準備、会場設営などを裏側から経験できました。あらためて、ボランティアの強力なサポートの上にこのイベントが成り立っていることを実感しました。

当日は超がつくベテランから若手まで、約70名のバイタリティあふれるメンバーが休日集まり、PMI本部の戦略を学び、ワークショップでは膝を突き合わせて議論し、夜はビール片手にPM談義に花を咲かせました。

この得難い機会に関われたことに感謝するとともに、この熱気を維持していきたいと思えます。

海外 kongress

PMIは、春に北米でGlobal Conferenceを、そして秋にEMEA Congressを開催しています。また、PMO Symposium®も秋に開催しています。各支部は、日本支部主催の日本フォーラムと同様のイベントを開催し、近隣支部の代表を相互に招待しています。

Global Conferenceは、基調講演のほか、各国支部で研究されている最新のプロジェクトマネジメントに関する研究成果が多数発表される場です。2017年はAgileが中心でした。

PMO Symposium®は、ユーザ企業の経営層、EPMO（経営企画部門の責任者クラス）、コンサルタントが多く参加しています。参加者総数は650名を超え名簿上では米国からの参加が567名と85%以上でした。ただし、多民族国家らしくアジア系を含めて米国在住の多様な参加者で構成されていました。2016年はこのPMO Symposium®の場でThought LeadershipシリーズとしてBRM(Benefits Realization Management) 5分冊が発表され大きな話題となりました。2017年はAgile関連(Achieving Greater Agility) 3分冊が公開されました。

このほかにPMIでは、支部理事などボランティアリーダーを対象にLIM(Leadership Institute Meeting)やRegion Meetingを開催しています。PMIは世界を15のRegionに分けて、Region内支部間の交流や支部運営ノウハウの交換を推進しています。LIMやRegion Meetingは、本部の方針や動向を理解し、ボランティアリーダーとして支部運営に関わる教育を受ける他、本部の理事や職員、他支部の代表とのネットワーキングの場でもあります。加えて日本支部活動を本部やAP各支部に紹介する場としても活用しています。

いずれの会議も女性の参加者が約半数を占め、年齢



NA-LIM最終日& Global Congress初日の合同基調講演

層も比較的若手(30代後半から40代あたりか?)が多く、Keynote含む各Sessionを通じて非常に活発な議論が展開されます。ランチやレセプションで隣り合った人と自己紹介を始めるなど、ネットワーキングも盛んに実施されていました。

日本では、働き方改革が声高に叫ばれているものの、まだまだ業務による拘束時間や通勤時間が長いこともあり、日本支部の各部会活動や日本フォーラム等の参加者も中堅クラスや女性が少ない傾向にあります。Globalで通用するためには政府主導の働き方改革に合わせて、幅広い会員の皆様が支部活動に積極的にご参加いただけるよう、環境を整えていきたいと考えています。

これらの活動を通して得られた最新の動向は、支部のWEBサイトやニュースレター等を通じて、支部会員の皆様に展開しています。



PMI日本支部 副会長 片江 有利

中国とモンゴルの対照的なkongressをご紹介します。中国kongressは年々参加者が増加し、延べ2000名を超え、PMPホルダーも18万名を超え、資格取得がキャリアアップに直結しているようで、優秀PMOとして表彰されたアリババグループの講演終了後には、講演者と名刺交換しようと長蛇の列ができていました。一方モンゴルkongressは、参加者はまだ350名で、PMPは30人ですが、国づくりにPMを取り込もうと意欲的な演題が続きました。この2か国に共通するのは若いメンバー、とりわけ女性が意欲的に活動している点です。熱心に聴講している姿に勢いを感じました。

特に面白かったプログラムをご紹介しますと、モンゴルkongressでの「クリエイティビティ」です。モンゴルの女性起業家を育成するNGOのファウンダーであるAjzargal氏の発想法の講義とワークショップでほとんど女性の受講者が「男性トイレの改善」「パソコンケースの改善・製品化」をテーマに活発に議論していました。数少ない男性として、男性トイレの改善では質問攻めにあったことは言うまでもありません。日本も女性の活躍の場を増やすことにPMI日本支部が貢献できるようにならねばと痛感しました。

COLUMN

2017年度 海外コンgres開催地と出張理事

会議名	日時	開催地	出張理事
PMI Leadership Institute Meeting - Asia Pacific	3月3日～6日	香港	奥澤、片江、麻生、当麻、除村
PMI Leadership Institute Meeting - EMEA	4月28日～30日	ローマ	中嶋
PMI China Congress	9月23日～24日	上海	片江、井上
SymEx 2017	10月11日	ジャカルタ	坂本 [※]
PMI Mongolia International Conference	10月6日～7日	ウランバートル	片江
PMI Leadership Institute Meeting - North America	10月26日～28日	シカゴ	奥澤、片江、武上、麻生
PMI Global Conference - North America	10月28日～30日	シカゴ	麻生
PMO Symposium	11月5日～8日	ヒューストン	麻生、森田、田島 [※]
PMI Hong Kong Congress	11月4日	香港	浦田
PMI Taiwan International Congress	11月18日～19日	台北	端山、除村
PMconclave17	11月18日～19日	ムンバイ	杉村、坂本 [※]

※部会からの代表者

JISA PM コミュニティへの支援

一般社団法人情報サービス産業協会(略称「JISA」)とPMI日本支部では、情報サービス企業のプロジェクトマネジメント強化を目的としたプロジェクトマネジメントコミュニティ(幹事:NTTデータ 林路彦氏)を2016年度より運営しています。

メンバーは参加を希望したJISA会員企業に加え、学術委員、事務局、PMI日本支部からは片江理事が参加し毎回10名ほどで議論を進めています。2017年は9回開催されました。

テーマとしてはプロジェクト・マネジャーの育成、評価、プロジェクトマネジメントの実績評価、各社の取組事例の共有等で活発に意見交換を行っています。

PMI日本支部では、「PMのコンピテンシー改善に向けた調査報告」(PMタレントコンピテンシー研究会)、「Pulse of the Profession 2017」、「PMBOK[®]ガイド第6版の変更内容」といったテーマに関連する情報を提供

しています。

なおコミュニティの活動はJISAホームページでも告知されています。



会議の様子

PMI日本支部 2017-2019 中期計画の進捗確認

支部活動の更なる充実に向けて

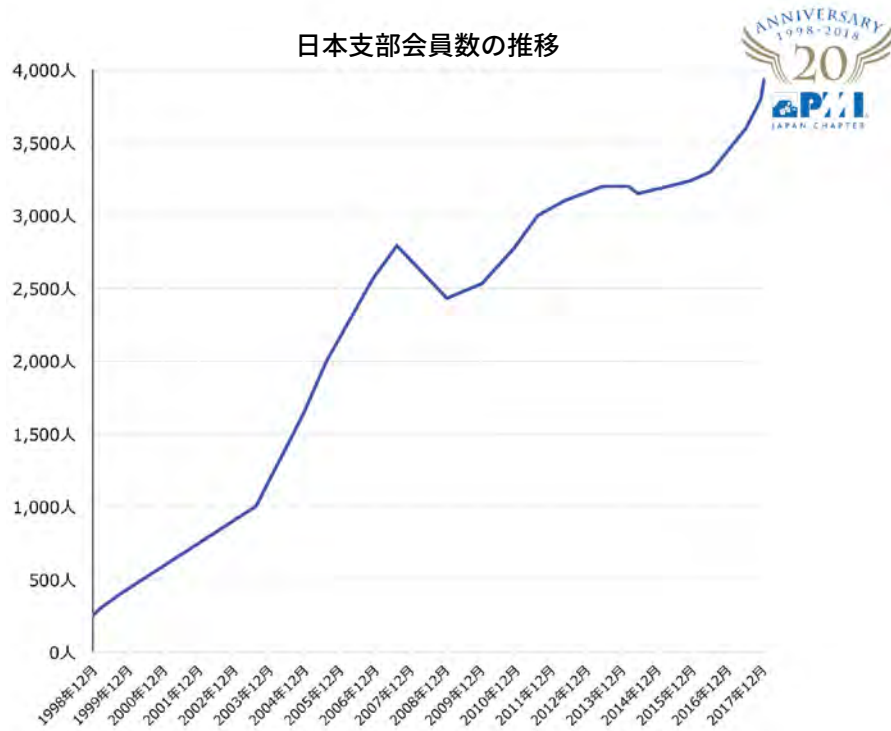
2017年は、日本支部第5期中期計画の最初の年でした。早々に行動に移された施策もありましたが、上期は施策の具体化検討、行動計画の策定が中心となりました。中期計画の施策候補を挙げたのは2016年上期のことであり、その後の環境変化を踏まえて、施策や目標に対する見直しの必要性を5月に確認しましたが、見直しは不要との結論に至りました。9月には戦略委員会等に中期計画に対する進捗報告を求め、進捗状況を踏まえた計画見直しや支部としての追加アクションの必要性を検討しました。その結果をまとめ、2018年度に向けた課題を年末の理事会に報告しました。

2017年における中期計画に関する活動は概ね順調に推移しておりますが、いくつかの懸念事項もありました。まず、理事やアクティブメンバーの熱意に依存しており、目標達成まで持続可能か危ぶまれる施策もありました。2017年末が理事改選期にあたり、2018年の新体制で理事の担当割り当てを工夫するとともに、ボランティアメンバーの機動的な募集も進めて参ります。また、長年の懸案に対しては、単純な解決策は存在しないので、粘り強く検討を重ね、多様な意見や見方を取り入れていく必要があります。ポートフォリオマネジメントやプログラムマネジメントなど、諸外国ほどに日本で関心が高まらないテーマの普及展開については、ミッション委員会内で議論を重ね状況分析を行った上で、WGを設置して新たなメンバーを迎えて検討を開始

しました。R.E.P.s (Registered Education Providers) との関係強化についても議論を深めています。会員数は順調に増大していますが、「PMBOK® ガイド」改定に伴う一時的な増加も含まれており、支部としての会員増強策と実績との関係は、慎重に見極めていく必要があります。

このような状況分析を踏まえ、新たな課題も見えてきています。戦略委員会の活動は充実してきておりますが、支部全体としての整合性を高める調整機能の充実が必要になってきました。また、中央、地方双方で、公的機関との関係が構築されつつあり、PMI本部やワシントンDC支部を通じた米国政府機関とのチャネルを利用することも考慮し、公的機関を通じた日本でのPPPMの普及拡大が視野に入ってきました。本部との連携強化を脱み国際連携委員会、教育国際化委員会等の活動を調整して、より戦略的な取り組みに踏み込むことも検討を要します。日本支部は世界でも有数の規模に成長し、PMI本部との関係も従来以上に深まっています。「PMBOK® ガイド」以外の標準類、PMP® 以外の認定資格の展開など、PMI本部の影響力を利用しつつ、日本支部の活動充実を狙うことも可能になっています。

2018年には設立20周年を迎え、日本支部は新たな段階に到達したとも言えます。会員の満足度を高めるために、中期計画の目標達成とともに、さらなる飛翔に向け、日本の社会状況や問題意識に応える活動の充実が求められていると認識しております。



2017-2019中期計画

No	施策名	目的	推進主体
[I] PPPMの普及推進			
1	PPPM普及推進戦略の確立	PPPMに関する内外の動向を調査、把握し、日本におけるニーズを分析して、PMI日本支部の戦略的な取り組みを調整、提起する	理事会
2	PMI標準翻訳	質の高いPMI標準書を邦訳する	標準推進委
3	PMI標準の普及	翻訳されたPMI標準書を普及する	標準推進委
4	海外でのProgram Management, Portfolio Managementの活用事例の紹介	普及の進んでいないProgram Management, Portfolio Managementでの定着	国際連携委
5	ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメントの応用分野の開拓	ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメントの応用について、ノウハウや知見をまとめ、普及の一助とする。	ポートフォリオ/ プログラム研究会
[II] グローバル化対応			
6	PMIのリソースとグローバルなネットワークを活用したPM教育の普及・グローバル化の推進	教育機関の取り組み課題である能動的人材育成(アクティブ・ラーニングの強化)、世界で活躍できるグローバル人材の育成に貢献する	教育国際化委
7	PMIJのプレゼンス向上	PMIJでの活動(特にIRC)をR9、R15等のカンファレンスで紹介し、グローバルプロジェクトを行う上での基礎知識として現地の方に広める。また、その機会を通しコミュニケーションチャンネルを構築する	IRC
[III] 他団体との連携強化			
8	PMに関係する団体との連携によるPM普及、強化活動	PMを実際に活用するユーザーの団体と連携しPMの普及を図る	企画担当理事
9	イノベーション、IoT、デジタル社会への対応策としてのPMの普及、強化活動	イノベーション、IoT、デジタル社会への対応についても関連団体連携し、実現の推進力としてのPMの実装、活用を推進する	企画担当理事
10	国内外のPM教育に関する情報交流HUB機能の強化	高等教育機関、中等教育機関で、PMの基礎を現場の教育に取り入れることができる教員や教育協力者が増え、PM教育のすそ野を拡大させる。	教育国際化委
11	R.E.P.との関係強化	会員サービスの向上/PMI方針・施策の浸透/市場ニーズの把握/個人会員の増加	REP友の会
[IV] PM適用分野の拡大			
12	外部表彰	PMI本部表彰制度を活用し、優れたPM実践者/組織を表彰することで、PMI日本支部とPMに対する社会的認知度を向上する	理事会
13	PM教育の必要性・有効性に関する啓発活動の強化	人材育成におけるPM教育の有効性、必要性を社会に広く認知させる	教育国際化委
[V] 首都圏以外での活動拡大			
14	PM活動による地域における価値創出の促進	PM活動を地域社会の充実化・活性化につなげるとともに、PM有効性を発展させる	地域サービス委
15	地域におけるPM活動のプロモーション強化と参加しやすい環境づくり	PMコミュニティやランチ活動の認知度向上および、活動体制の強化につなげる	地域サービス委
[VI] PMを通じた社会貢献の展開			
16	社会貢献活動の実践を通じたPM手法、資産の充実と普及展開	PMI日本支部として社会貢献活動を行うことによりPMの適用領域を拡大する	ソーシャルPM研究会
[VII] 支部活動基盤の整備			
17	部会リーダー交流会の設定と運営	・部会間での連携強化 ・理事会や戦略委員会への要望や提言の場を提供する	PMコミュニティ活性化委
18	戦略運営委員会の運営確立	PMI日本支部のガバナンス体制向上に向けた委員会改編に伴う体制確立	企画担当理事/ 戦略運営委
19	複数の部会での共同企画の開催	・部会間での連携強化 ・お互いの知見を活用することによる企画の質や効率の向上	PMコミュニティ活性化委
[VIII] アクティブメンバーへの支援強化			
20	リーダーシップスキル育成	各部会のアクティブメンバーの質の向上	PMコミュニティ活性化委
21	ボランティア・コミュニティの運営手法の体系化	各部会の活発な活動の実現を支援する	PMコミュニティ活性化委
22	日本支部会員に対する価値ある情報の発信	PMI本部、日本支部、部会活動などの会員限定の情報を発信することにより、会員である価値を高め、リテンション率の向上とアクティブメンバーの増加をめざす	PMコミュニティ活性化委
[IX] サービスの向上			
23	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上①	法人ごとのPMIに求める価値の仮説設定による木目細かな施策の展開	組織拡大委
24	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上②	法人スポンサー拡大のために追加の特典、施策を検討し展開する	組織拡大委
25	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上③	法人スポンサー企業の身近な存在としての認知度向上	組織拡大委
26	新規入会者へのガイダンス	新規入会者のリテンション率向上	組織拡大委
[X] 会員増強			
27	法人スポンサー企業の個人会員増加施策	法人スポンサーの窓口経由で個人にアプローチし、いろいろなベネフィットの違いも提示して個人会員に誘導する	組織拡大委

PMI 標準の最新情報

最新「PMBOK® ガイド第6版」

2017年はPMI®標準類の歴史の中でも画期的な年でした。5種類ある基本標準のうち4種類がほぼ同時に発刊されたのです。最初に「PMBOK®ガイド第6版」が「アジャイル実務ガイド」とのパッケージとして発刊されました。それぞれ単独の販売も行っておりますが、2冊をひとつのパッケージとして「PMBOK®ガイド第6版」だけの価格に含めるという思い切った戦略を採用しています。



PMIによるアジャイル実務ガイド

「アジャイル実務ガイド」は、PMIとアジャイル・アライアンスとの協業で作成され、アジャイル・アプローチについて「PMBOK®ガイド第6版」との親和性を確保しながら詳述して、組織へのアジャイル・プロジェクト導入の手引きとしています。当然、「PMBOK®ガイド第6版」自体にもアジャイルについての記述が多く取り上げられております。アジャイル・アプローチは、ウォーターフォール型とも呼ばれる従来のアプローチでは対処しきれない変化や不確実性の高い領域におけるプロジェクトのひとつの手法として、2000年代の初めに開発され発展してきました。この手法は、当初IT産業におけるソフトウェア開発プロジェクトのために考え出されたのですが、今やあらゆる産業や領域において採用されています。アジャイル・アプローチは単にモノづくりのためだけのプロセスではありません。それを導入し成功させるためのマネジメント領域として、組織改革まで考慮に入れています。

PPPMの進化

「プログラムマネジメント標準第4版」と「ポートフォリオマネジメント標準第4版」も「PMBOK®ガイド第6版」との整合性を維持するために相次いで発刊され、いわゆる PPPM (Portfolio, Program, and Project Management) と称される3つの標準がほぼ同時に揃いました。さらに、プロジェクトの上流といわれるビジネ

スアナリシスの領域のための「PMIビジネスアナリシス・ガイド第1版」が発刊されたのです。ビジネスアナリシスについては、すでに2015年に「実務者のためのビジネスアナリシス:実務ガイド」が発刊されていましたが、それがPMIの基本標準に高められたということになります。

開発中のOPM

PPPMは出揃ったのですが、それらを組織という枠組みの中で実践するにはさまざまな課題が想定されます。そもそもPPPMは組織における戦略目標を達成するために存在するので、PPPMを効率よく運営するためには想定されるさまざまな課題を解決し、必要に応じて組織変革や改革にチャレンジしなければなりません。つまり組織として、定常業務とともにプロジェクト・タイプの仕事をうまく回して事業価値を獲得するためには、相応の枠組みを構築して円滑に運営できるような仕組みが望まれます。そのために現在PMIで開発中の「OPM (Organizational Project Management)」が、組織の中でPPPMをうまく運営するためのフレームワークを提供するものとして期待されています。このOPMは2018年に発刊予定であり、現在の基礎標準のひとつである「組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル(OPM3®)」にとって代わる予定になっています。

充実した実務標準

さらに、これらの新しい標準を補完するように、“実務標準とフレームワーク”および“実務ガイド”というカテゴリーがあり、それぞれ実務に即した内容としてさまざまなマネジメント領域をカバーしています。結果として、組織や顧客のビジネス・ニーズの把握・分析からソリューションのデリバリーまでの一連の流れをサポートするPMI標準のラインアップが完成したことになります。

働き方改革もプロジェクト

さて私たちの周りを見ても、プロジェクト・タイプの仕事や業務がたくさんあります。身近なところでは、結婚式や運動会、そして発表会などのイベントはすべてプロジェクトといえます。ところがほとんどの人は「プロジェクト」という意識なしで運営しています。これらを効率的かつ効果的に成功させるためのフレームワークが「プロジェクトマネジメント」であり、その世界標準が「PMBOK®ガイド」なのです。働き方改革を進めるにあたって大いに役立つことでしょう。

カテゴリー	英語名称	発刊	日本語名称
基本標準	PMBOK® Guide Sixth Edition	2017	「PMBOK®ガイド第6版」
	The PMI Guide to Business Analysis – First Edition	2017	PMI ビジネスアナリシス・ガイド第1版
	The Standard for Program Management – Forth Edition	2017	プログラムマネジメント標準第4版
	The Standard for Portfolio Management – Forth Edition	2017	ポートフォリオマネジメント標準第4版
	Organizational Project Management Maturity Model (OPM3) – Third Edition	2013	組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル (OPM3) 第3版
	Organizational Project Management	2018	組織的プロジェクトマネジメント
実務標準とフレームワーク	Practice Standard for Project Risk Management	2009	プロジェクト・リスク・マネジメント実務標準
	Practice Standard for Earned Value Management – Second Edition	2006	アード・バリュー・マネジメント実務標準第2版
	Practice Standard for Project Configuration Management	2007	プロジェクト・コンフィギュレーション・マネジメント実務標準
	Practice Standard for Work Breakdown Structures	2006	ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャー実務標準
	Practice Standard for Scheduling – Second Edition	2011	スケジューリング実務標準第2版
	Practice Standard for Project Estimating	2016	プロジェクト見積り実務標準
	Project Management Competency Development Framework – Third Edition	2017	プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系第3版
実務ガイド	Agile Practice Guide	2017	アジャイル実務ガイド
	Requirements Managements : A Practice Guide	2016	
	Governance of Portfolio, Program, and Project : A Practice guide	2016	
	Business Analysis for Practitioners : A Practice Guide	2015	実務者のためのビジネスアナリシス：実務ガイド
	Implementing Organizational Project Management : A Practice Guide	2014	
	Navigating Complexity : A Practice Guide	2014	
	Managing Changes in Organization : A Practice Guide	2013	組織のチェンジマネジメント：実務ガイド



実務ガイド (Practice Guides)

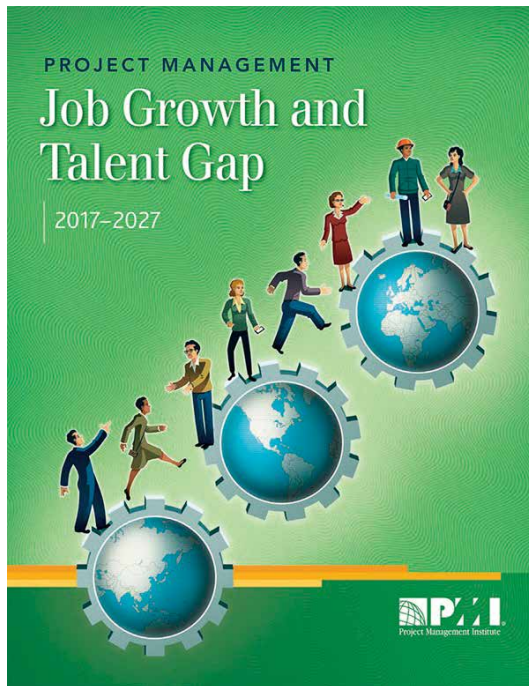
プロジェクトマネジメントの動向

ビジネスや社会の要請を見据えた PMI® の取り組み

PMIは2017年末現在、全世界207カ国290支部、会員数は50万人を超え、PMP®などの認定者総数は89万人を突破しました。拡大を続ける会員・認定者を背景に、2017年発表のPMIの戦略目標では、①戦略の集中 ②お客様中心 ③組織のアジリティ の三本柱が掲げられ、プロジェクトマネジメントのキャリアや専門力を高める取組みをいかに提供するか、多様な視点から再検討が加えられています。学術・組織・実践者の三つのチャンネルを総括、焦点を個人に絞り、ニーズを汲み取り、デジタル化を進め、PMI自身も俊敏で柔軟な組織として活動をすべく、様々な方針が打ち出されています。

1 PMのキャリアを支援する情報発信・新たな取組み

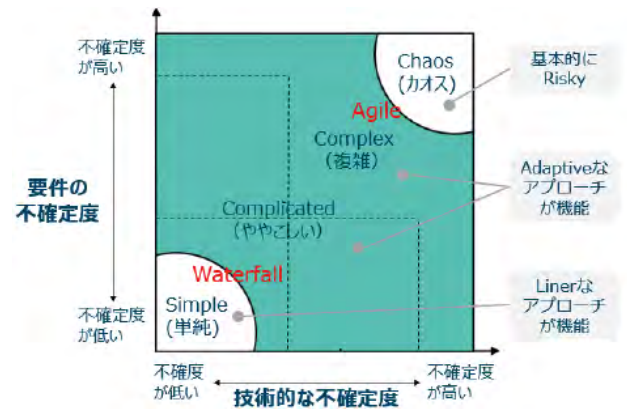
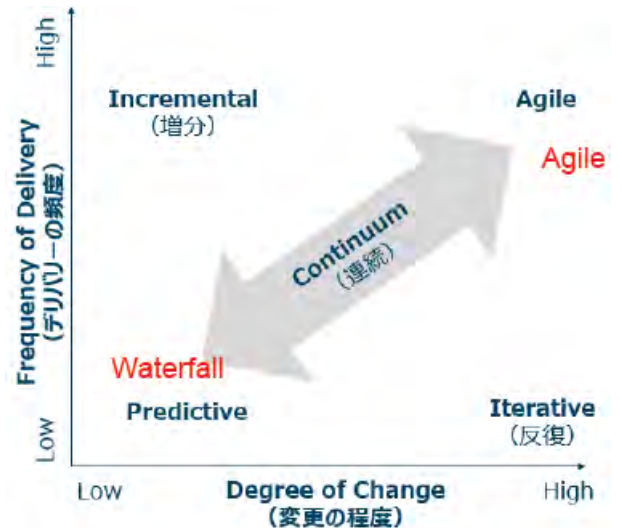
5月には『Project Management Job Growth and Talent Gap 2017-2027』¹⁾を公表、日本を含む11カ国での調査結果を踏まえ、2027までの10年間でプロジェクトマネジメントに関する仕事は33%の成長が見込めるとの予測を示しました(日本:12%、米国:31%、中国:32%、インド:48%)。PM職の各国動向をデータと目を引くデザインで図示、キャリアを考えていく上でも有効な情報となっています。



9月には「PMBOK®ガイド第6版」とアジャイル実務ガイドを同梱で出版、最適な方法論を選択できるよう、重要な情報を実務者に提供するガイドとして発表されました。要件も技術も確実な場合は、スコープを確定し

変更やデリバリーの頻度を抑える「予測型」(Waterfall)。いずれも不確実な場合は、変化に即応できる「適応型」(Agile)。相互を組み合わせた進め方(Hybrid)も含め、アプローチの選択や、各特性に基づく実務での考慮点が、双方の対比も交え、総括されています²⁾。

アプローチの選択



10月には初のPodcastシリーズである“Projectified with PMI”³⁾も開始されました。経験豊富な上級職PMやFortune 500のビジネスリーダーが講師となり、特化テーマを30分程度で解説する、新たな取組みです。イノベーション、AI、デジタル・トランスフォーメーション、Agility等、



時流を意識したテーマが並び、時間面でコンパクトな点も含め、今後の活用や発展が期待される機会となっています。

2 AgileおよびAgilityの推進

「PMBOK® Guide goes Agile” (PMBOK® ガイドが Agileに)」と評される記事が目立つ、第6版に関するWeb情報。9月には、動向調査である PMI Pulse of the Profession® より「Achieving Greater Agility」(より高い俊敏性の発揮)、「The Drivers of Agility」(俊敏性の推進



2017 Thought Leadership Series



Pulse of the Profession® In-Depth Reports

要因)を公表、11月にはPMO Symposiumの場で、調査報告である Thought Leadership Seriesで「Achieving Greater Agility」のシリーズ3分冊を公表、AgileおよびAgilityに関する発信が相次ぎました。⁴⁾

PMIはAgileに関し、プロジェクトでの方法論では、様々なアプローチ(Scrum, XP等)を包括した進め方の指針を、組織やマインドセットの観点では、Agility(俊敏性)をめぐる調査結果や考察を提供しています。Agilityを、「外部の変化を迅速にとらえて適応し、関連する結果を生産的かつ費用対効果の高い方法で提供する能力」と定義、Organizational Agility(組織の俊敏性)がプロジェクトの成功率を高めることを、調査結果から示し、Agile Transformation(Agileへの移行)についても、データに基づく評価や成功要因を整理しています。世界では71%の組織が、Agileによるプロジェクトマネジメントを以前よりも多く採用⁵⁾する一方、日本でのAgileの導入は、PMI日本支部関係者を対象とした調査結果で2015年:31%、2016年:37%、2017年:42%⁶⁾。意識調査から読み取れる課題は、Agileの理解や品質面・人材育成での悩み⁶⁾と分析される中、これら一連の取組みが活用され、状況変化の一助となっていくことが期待されます。

3 ビジネス・組織・人材を支える標準類の充実

2017年は「PMBOK®ガイド」の他に、Program ManagementとPortfolio Managementは第4版、Project Manager Competency Development Frameworkは第3版と、主要な標準類も相次いで改版されました。年明けでの初版発行となったBusiness Analysisも含め、ビジネス・組織・人材を支える標準類はますます充実、PMIタレント・トライアングルが提唱する「戦略とビジネス」「リーダーシップ」の領域や、組織としてのアプローチを強化する手段が、様々な形で提供されています。PMIが提供する知見や機会は、拡大を続けるコミュニティを背景に、ますます発展していきます。

1) <https://www.pmi.org/learning/careers/job-growth>

2) 『Agile Practice Guide』 PMI 2017 P.14抜粋・日本語化および一部追記

3) www.pmi.org/podcast

4) <https://www.pmi.org/learning/thought-leadership/pulse>

<https://www.pmi.org/learning/thought-leadership/series/achieving-greater-agility>

5) Pulse of the Profession® 第9回報告 Success Rates Rise (2017年2月出版)

6) 『アジャイルプロジェクトマネジメント意識調査報告 2017』PMI日本支部アジャイルプロジェクトマネジメント研究会

個人会員制度

▶ 会員制度のメリット

プロジェクトマネジメントに関して体系化されたアプローチと方法論・事例に関する知識を深く理解するために、PMP®の取得・維持は極めて有効です。日本支部のメンバーになることで、そのための強力な支援が受けられます。

◆プロジェクトマネジメント実務者の方には

他社プロジェクト・マネジャーとの交流、PMI関連資格保持・更新のための情報収集のほか、ベストプラクティスやプロジェクトマネジメントの近況・見通し、PMI関連の研究状況の把握などにより、プロジェクトマネジメントに関する自己啓発につながり、実務能力を向上させる機会となります。

◆経営者の方には

プロジェクト・マネジャーの育成、ベストプラクティスの研究結果や方法論の実践により、経営や組織の能力を高める機会となります。

◆一般の方には

今話題のあらゆる分野のプロジェクトマネジメントについて、専門的な知識・情報取得のチャンスとなります。

▶ 日本支部会員の特典

① セミナー受講費の割引

日本支部主催のフォーラム、Festa、月例セミナー、アジャイル関連セミナーなど各種セミナー(下表および次ページの図を参照)に割引価格で参加いただけます。また、PDU、PMP®受験研修時間、ITC実践力ポイントなどの受講証明書を発行します(地域セミナーなど一部に発行対象外のものもあります)。

規模	セミナー名称	PDU	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
大規模 (数百人)	日本フォーラム(2日間)	12			★	
	Japan Festa(2日間)	9~11				★
中規模 (100人)	月例セミナー(2時間/回)	2	★	★	★	★
	各種地域セミナー (3~4時間/回)	3~4			★	★
小規模 (10~30人)	PMBOK®セミナー(2日間)	14	適宜			
	アジャイルPM、デザイン思考、 ソーシャルPM、PMO、リスク、 ステークホルダー、ケースメ ソッド、英語コミュニケーション、 次世代リーダーシップなど W/S(1日)	6~7	適宜			

② 各種委員会、研究会などへの参加

各種の委員会、研究会等に参加することで、プロジェクトマネジメントに関わる技術研鑽、異業種の方々と情報共有・交流(skype等も活用)しながらPDUも取得

できます。また、これらの活動の成果は毎年夏に開催する日本フォーラムで発表されています。2017年は21部会から31編の発表がありました。

【戦略委員会】

- ①地域サービス、②PMコミュニティ活性化、③組織拡大、④国際連携、⑤教育国際化、⑥標準推進

【研究会】

- ①IT、②EVM、③ポートフォリオ・プログラム、④PMタレントコンピテンシー、⑤組織的PM、⑥リスク・マネジメント、⑦PMO、⑧PMツール、⑨女性PMコミュニティ、⑩IRC、⑪アジャイルPM、⑫ソーシャルPM、⑬ステークホルダー、⑭ビジネス・アナリシス、⑮プロジェクトマネジメント、⑯PM教育、⑰PM翻訳・出版

【プログラム】

- ①PMBOK®セミナー、②メンター、③セミナー

【関西ブランチ】

- ①運営委員会、②PM実践研究会、③医療PM研究会、④IT上流工程研究会、⑤定量的PM事例研究会、⑥PM創生研究会

【中部ブランチ】

- ①運営委員会、②PMサロン、③地域ソーシャル・マネジメント研究会

③プロジェクトマネジメント関連書籍の割引購入

ホームページを通じて「PMBOK®ガイド」やプログラムマネジメント標準などのプロジェクトマネジメント関連書籍を会員価格(一般価格の6割~9割)で購入いただけます。

④ 翻訳記事や「PMBOK®ガイド」テンプレート集などの閲覧、ダウンロード

会員専用ホームページで、PMI本部が発行しているPM Network®やPMI Today®などの翻訳記事を参照できるほか、プロジェクトマネジメント研究会やPM

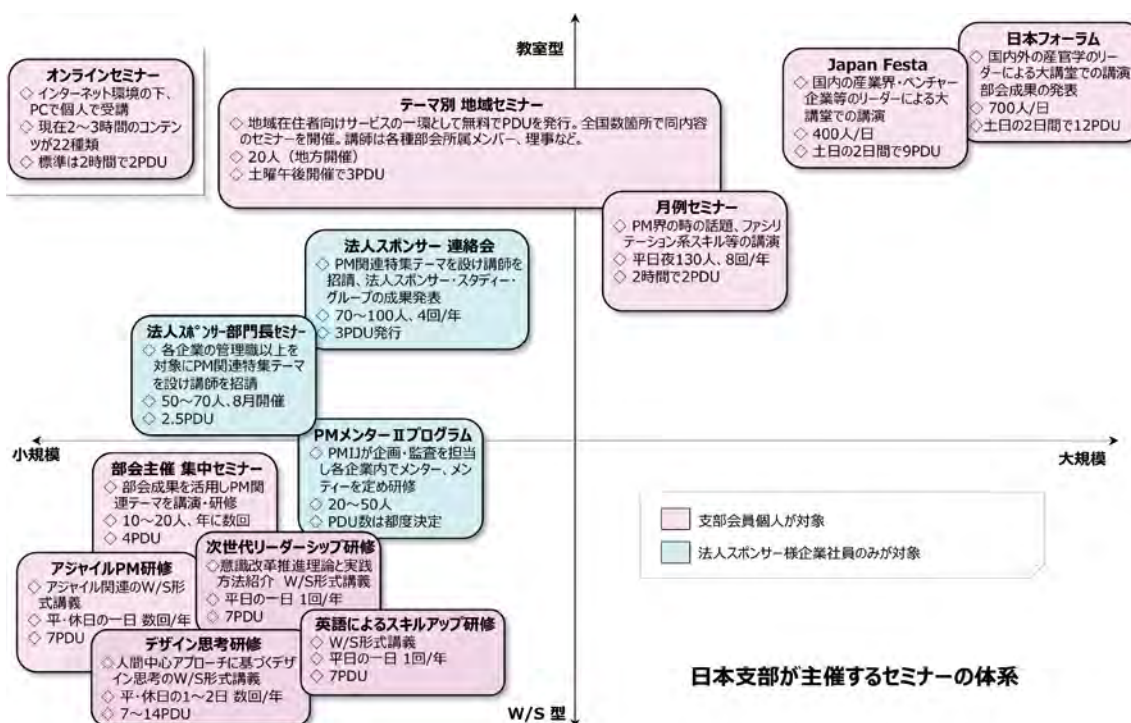
タレントコンピテンシー研究会、リスク・マネジメント研究会など部会メンバーが作成した実務向けのテンプレートをダウンロードしてご利用いただけます。また、日本支部における過去の翻訳プロジェクトの成果を取り入れてガイドラインとしてとりまとめた日本語表記法を参照いただけます。

会員登録も同サイトから行えます。決済にはクレジットカードがご利用いただけます。なお、入会時の総必要額189ドルは、例えば日本フォーラムに2日間通しでご参加いただいた場合の会員価格と一般価格の差額に相当します。日本支部会員としてのさまざまな特典を活用しつつ、プロジェクトマネジメント・スキルの研鑽をお積みください。

▶ 入会手続き

日本支部に入会いただくには、まずPMI本部に入会いただく必要があります。PMI本部ウェブサイトからオンラインサービス登録を行ってください。日本支部

PMI 本部		PMI 日本支部	合計
入会費	年会費	年会費	
10ドル (入会時のみ)	129ドル	50ドル	●入会時は189ドル ●以降1年ごとに179ドル



【参考】 日本支部会員数、日本国内におけるPMI関連資格保有者数の推移

(各年12月末現在)	年度			
	2014	2015	2016	2017
PMI 日本支部会員	3,146	3,227	3,422	3,932
CAPM® 資格保有者	56	85	98	119
PMP® 資格保有者	31,590	32,491	34,451	36,308
PfMP® 資格保有者	0	1	3	3
PgMP® 資格保有者	4	3	4	5
PMI-RMP® 資格保有者	4	6	6	7
PMI-SP® 資格保有者	4	4	4	4
PMI-PBA® 資格保有者	0	2	3	4
PMI-ACP® 資格保有者	12	16	24	35

【参考】 全世界でのPMI会員数、PMI関連資格保有者数の推移

(各年12月末現在)	年度			
	2014	2015	2016	2017
PMI 会員	454,032	478,493	472,269	500,461
CAPM® 資格保有者	27,168	30,474	32,868	34,504
PMP® 資格保有者	639,237	694,534	745,891	827,960
PfMP® 資格保有者	183	286	403	506
PgMP® 資格保有者	1,161	1,483	1,788	2,173
PMI-RMP® 資格保有者	3,003	3,443	3,886	4,540
PMI-SP® 資格保有者	1,268	1,448	1,603	1,782
PMI-PBA® 資格保有者	216	569	1,127	2,020
PMI-ACP® 資格保有者	7,282	10,351	14,021	19,295

法人スポンサー・プログラム

▶ 法人スポンサー・プログラムとは

法人スポンサー・プログラムとは、組織でのプロジェクトマネジメントの普及、向上に関心を持ち、日本支部のミッションに賛同しその活動を支援して下さる組織(企業、教育機関、行政機関等)に対し提供するプログラムです。

▶ 法人スポンサー・プログラムのメリット

- ◆日本では数少ない、企業のプロジェクトマネジメント推進ご担当者の意見交換、相互研鑽および人脈拡充の場を提供しています。年に5回、各回100人を超える参加を得て情報交換・発表会を実施しています。
- ◆社員の方々は、プロジェクトマネジメントに関する研鑽の場となる勉強会(法人スポンサー・スタディー・グループ)に参加できます。
- ◆メールマガジンにより法人スポンサー・プログラムや日本支部主催イベントのご案内をさしあげます。また、日本支部主催イベントへの参加や日本支部で取り扱う書籍の購入に際し特別割引が受けられます。
- ◆法人スポンサーとして貴社ロゴ、貴社名を日本支部のホームページに掲載しますので、プロジェクトマネジメントに熱心な企業として広く社会にアピールすることができます。

▶ 2017年 法人スポンサー・プログラム実績

(1)法人スポンサー連絡会*1、PM部門長セミナー*2

法人スポンサーさまの社員のみが参加できるもので、参加者には無料でPDU受講証明書(通常3PDU)を発給します。法人スポンサー連絡会は四半期ごとに開催しており毎回100名超の参加を、PM部門長セミナーはPM部門長向けに毎年8月に開催しており50~70名の参加をいただいています。

※1 PMおよびPM人材育成部門の方々に、PM界の最新情報をお伝えします。
※2 PM部門長の方々に、部署をリードする際に必要な最新の知識をお伝えします。



法人スポンサー連絡会

- ❖3月度連絡会 特集:ケースメソッドによるPM人材育成
- ❖6月度連絡会 特集:アジャイル
- ❖9月度連絡会 特集:PMI新標準類と期待される新PM像
- ❖12月度連絡会 特集:組織におけるPM活動
- ❖8月 PM部門長セミナー 特集:PMO



法人スポンサー連絡会

(2)法人スポンサー・スタディー・グループ

スタディー・グループは、法人スポンサーさまの社員のみで構成する勉強会で、各企業が抱える課題について意見交換、調査研究を行っています。2017年は延べ70社を超える企業から84名の方々の参加のもと、5グループが活動しました。なお第一線PM実践力強化スタディー・グループは、初期の目的を達成し6月に活動を終了したため現在は4グループとなっています。

◆人材育成スタディー・グループ

PMCDF(プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系)の人格コンピテンシーに着目し研究しています。2017年度は「人格コンピテンシー副読本」、「パフォーマンス基準チェックリスト」および「プロジェクト・マネジャーの人間力教科書」を作成しました。現在はより実践的な「今日から使える人間活用術(仮称)」を作成中です。

◆若手PM育成スタディー・グループ

若手PM育成を目的に、3つの観点「PM候補者選定ポイントと方法」、「PMのモチベーション維持・向上のための行動規範」について調査研究し、「PMモチベーションの維持・向上の行動」としてまとめました。現在は「若手PM育成方法」について検討中です。

◆第一線PM実践力強化スタディー・グループ

2016年から「格言からプロジェクトマネジメントの極意を学ぶ」と題し、孫子の兵法等の格言からPM実践力を発揮する場面での「気づき」について検討・整理しました。さらにPRINCE2と「PMBOK®ガイド」の比較研究を行い2017年6月には初期の目標を達成し活動を終了しました。

◆PMコミュニティ・スタディー・グループ

ビジネス環境のスピード化、多様化、およびグローバル化に伴い、企業のPMコミュニティの重要性はますます高まっています。本SGでは「PMコミュニティがPMを変える～惹かれるPMコミュニティのつくりかた～」のスローガンのもと調査研究を行っています。2017年はメンバー各社にアンケートを行い、マインドマップによる事例整理を行い、現在は法人企業様宛にもアンケートを行っています。

◆ケースメソッド・スタディ・グループ

プロジェクトを取り巻く環境はますます複雑度、困難度を増しています。このような厳しい環境下で、プロジェクトを成功に導く実践的プロジェクト・マネジャーの育成は喫緊の課題となっています。本SGはケースメソッドによる社内PM教育を行っている方々が、同業他社や他業界と共同研究することでより多くの知見やノウハウを取得することを目的としています。

(3)メンタープログラムⅡ

◆メンタープログラムⅡとは

メンタープログラムⅡは、法人スポンサーさま限定プログラムで、当該企業さまが持つプロジェクトマネジメントに関わるノウハウ継承、プロジェクト実践力強化、トラブル対応力強化等のための教育をグループ

メンタリング方式で実現するものです。メンター、メンティーともPDUを取得できるメリットもあります。

◆対象領域

具体的には、プロジェクトマネジメントを遂行するための必要な関連知識、「PMBOK®ガイド」の知識エリアおよびPMプロセス、PMIが設定したプロジェクトマネジメントに係る各種標準などを対象とした教育プログラムを組みます。

◆カスタマイズされた教育プログラム

企画段階で日本支部が支援させていただき、当該企業さまの環境(知識、経験、対象部門等)に合ったプログラムを作成することになります。また、場所・日程・時間帯についてもご都合に合わせて設計出来ます。

◆2017年度の実績

2017年度は大手鉄鋼メーカー、大手シンクタンク、証券系ITベンダー、システムインテグレーター、宇宙・航空システム、HDD開発製造、POSレジ・店舗機器・システムなど多岐にわたる業界の8社/11件のご利用をいただきました。

たとえば、以下のような内容で実施しています。

- ◆海外大型鉄鋼プラントにおける主要プロジェクト技術における主たる問題点と対応、その考え方の事例研究。
- ◆宇宙・航空開発プロジェクト「PMBOK®ガイド」の適用研究。
- ◆顧客満足度を向上させるプロジェクトマネジメント・プロセスの改善。
- ◆企業会計システム構築プロジェクトにおけるリスク対策、ステークホルダーマネジメント

行政プログラム

日本での行政の取組は「事務事業」、「施策」、「政策」をそれぞれ評価しながら、組織としての成果や今後の対応を進めていきます。これはPMI®が推奨している「プロジェクト」、「プログラム」、「ポートフォリオ」として置き換えられると考えます。

日本支部では、行政スポンサーという仕組みがあり、現在、三重県桑名市、滋賀県大津市市民部にスポンサー

となっていただいております。プロジェクト支援や学習などを行っています。また、京都市中京区向けにプロジェクトマネジメント講座を行い、北海道庁の方々にもプロジェクトマネジメントのイベントへの参加をいただいております。

行政におけるPMI標準の適用が普及するよう、今後さらに働きかけを推進しようと考えています。

アカデミック・プログラム

当プログラムは“プロジェクトマネジメント (PM)に関する知識・素養が、今後社会に求められる人材のジェネリックスキルであることを広く発信し、PM教育の普及を推進する”ことをミッションとして2010年以来継続的に取り組んでいます。

▶ 教育国際化委員会の設置

当該活動をより発展させるために新たに教育国際化委員会を設置し、2017年1月に産学メンバー15名によって本格的に活動を開始しました。

主要活動の枠組みとして、

- ① 情報発信
- ② 情報交流～支援活動とハブ機能の強化～
- ③ PMIリソースとグローバルネットワークの活用

を定め、2017年度はPM教育共通教材、グローバルPBL他大学連携、産学の関係団体との連携強化などを中心テーマとして成果を上げました。

▶ 情報発信

◇支部ホームページに新たにアカデミック・ページを新設し、内容の拡充を図りました。

並行してアカデミック・ニュースレターの発信によって一般への周知を図りました。その中の特集“わが校のPM・実践教育”には5校の例を掲載しました。一例として、神戸女子大学家政学部の場合では衣食住のモノづくりから生活の質向上のための生活プロデュース・コースが設けられ、共通実践能力としてプロジェクトマネジメント教育を取り入れるなど示唆に富んだ内容が掲載されています。

◇日本フォーラムにおけるアカデミック・トラックの設置

日本フォーラムは国内最大級のプロジェクトマネジ



ワークショップ



昼食会

メントのイベントですが、アカデミック・トラックを設けて今回で6回目の開催となりました。

2017年度は、新たな試みとして複数のテーマを設定し、それぞれワークショップの形態をとり多くの意見交換の場を設けました。

- 「PM教育裾野拡大」のテーマで3つの例の紹介
- 「産学・地域・国際連携 ～次世代人材育成～」のテーマで4件の実践事例紹介
- キャリア開発で企業から大学に転じた3人の学位取得例
- グローバル事例として、上海交通大学のPM教育体系・GAC認証取得経験の発表
- 支部のアカデミック・プログラムについて
- 実践例の紹介として、大学における関連教育プログラム2件
- 大学改革の実例紹介



発表者への感謝状授与

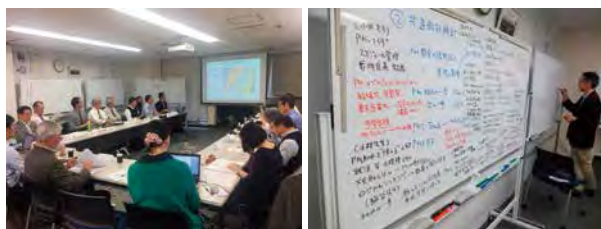
▶ 情報交流 ～支援活動とハブ機能の強化～

◇アカデミック・スポンサー登録の拡充

コアとなる教育機関としてアカデミック・スポンサー制度を推進してきましたが、2017年末時点で36の大学院、大学、高等専門学校から、40部門の登録を得ています。

◆アカデミック・スポンサー会議の開催

日本フォーラムで挙げた主要テーマについて議論を継続するために秋に新たな会議体としてアカデミック・スポンサー会議を発足させました。会議は、教育国際化委員会、アカデミック・スポンサー、PM教育研究会から計17名の参加を得て“PBLプログラム連携”、“PM共通教材”、“産学連携”について、活発な議論が行われました。



会議の様子

◆E-Learningパッケージ「一歩シリーズ」の完成と大学および、総務省への提供

「PMはじめの一歩」(15分4巻)と「PM次の一歩」(15分6巻)の完成を見て、中央省庁のIT人材育成プログラムの教材として提供しました。また、既存のユーザーである大学等教育機関へも更新版として提供しました。

◆複数大学によるグローバル・産学連携PBLおよびインターンシップの実施

PMI日本支部として、GTI (Global Technology Initiative) コンソーシアムへ参加し、グローバルPBLの連携を開始しました。愛媛大学工学部から3名の4年生が、芝浦工業大学が実施した国際産学地域連携PBLに参加しました。さらに、愛媛大学から教員3名が、部分参加または見学し、PBLでの大学間連携を進めました。

◆行政機関との連携

内閣府「プロジェクトマネジメントにおける組織・人材に関する勉強会」へ参加しました。

▶ PMIリソースとグローバルネットワークの活用

◆PMI教育財団 (PMI EF) のLiaison Chapter登録と活動開始

PMI教育財団は小・中・高の教育機関、NPOを対象にPMI本部から独立した財団としてPM教育の普及に努めています。日本支部として長年の懸案だったPMI EFにリエゾン登録することができ、新たに5名のメンバーを委員会に迎え本格的な活動が開始されました。最初の成果としてPMI EFの中のPMの考え方を伝える児童向け冒険小説、“Project Kids Adventure (PKA) シリーズ:全5巻”を翻訳、完成させました。これはPMI EFにフィードバックされ世界中に公開されます。



プロジェクト・キッズ・アドベンチャー



また、PMI教育財団の趣旨に賛同して日本支部として約50万円の寄付を行いました。

◆GAC (Global Accreditation Center : PMIによるPM教育の質保証)

GAC認証に関する国際セミナーへの参加、日本フォーラムのアカデミック・トラックでの上海大学リン先生による「アジア圏におけるPM教育先進事例紹介」、米国先進例としてノースカロライナ大学アナタトムラ先生との提携などの活動を継続しています。



愛媛大学大学院理工学研究科 電子情報工学専攻 教授 小林 真也

実社会に存在する課題に対して、適切な技術を選び、適用することができる実践力のある技術者に必要な能力として、プロジェクトマネジメントが必須との考えから、学部教育、大学院教育に取り入れています。PMIJのアカデミックプログラムで、他の教育機関の取り組みを知ること、また、PMIJが中心となって開発に取り組んでいる教材の利用など、自校でのPM教育実施にとってありがたいものとなっています。

PMIJの活動への参加で、恩恵をいただいているばかりのような気もしていますが、その恩恵を、人材の輩出という形で、社会に貢献したいと努めています。

COLUMN

各種セミナー・ワークショップ

部会メンバー・事務局主催セミナー、ワークショップ

月例セミナー

セミナープログラムのメンバーが講師選定・折衝・当日運営の全てを務めるセミナーで、現役PMをはじめ将来PMを目指す方々に、「PMBOK®ガイド」にとられない広い分野のテーマでスキルアップの機会を提供しています。

2017年も、クレームのハンドリング術、NLPを活用した一流のリーダーシップ、職場活性化のためのコミュニケーション法、職場におけるイクボスの普及、不確実性の時代を生き抜くリーダーの極意、管理を撤廃した会社のマネジメント術など、多岐にわたるテーマで各界の専門家に登壇いただきました。

計8回の聴講者は延べ1,000人近くに上り、90%を超える方々から常に高い評価を得ています。また、8回のセミナー全てに参加いただいた方は前年度より2名増えて13名にも上り、年末のセミナー冒頭で表彰させていただきました。



アジャイルプロジェクトマネジメント・セミナー

2017年もアジャイルプロジェクトマネジメント研修を9コース開催しました。

「アジャイルプロジェクトマネジメント基礎」では、アジャイルプロジェクト成功の鍵となる「アジャイルの基本的な考え方を正しく理解すること」に焦点を合わせています。

「アジャイルプロジェクトスタートアップ入門」では、アジャイルプロジェクトにおける見積りと計画について、ワークショップ中心で学んでいただきました。

アジャイルは「PMBOK®ガイド第6版」でその要素が多く取り入れられており、プロジェクトマネジメントにおける必須のスキルとなっています。



デザイン思考・セミナー

2017年は「デザイン思考基礎」を5回、新コースの「デザイン思考実践(2日間)」を2回開催し、いずれも高い評価を得ました。



「基礎コース」は、まず顧客経験とは何か、ビジネスにおいてなぜ重要か、といった基本的考え方を紹介し、一部の技法はワークショップ形式で体験するものです。

2日間の「実践コース」では、顧客経験の理解を通じて誰も気づいていなかった核心をついた解釈(インサイト)を定義し、そのインサイトを基に、アイデアを出して統合する実践的な具体的手法をワークショップで体得していただきました。

ソーシャル・プロジェクトマネジメント・ワークショップ

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会では、東日本大震災後に日本支部が実施した「災害復興支援プログラム」



やメンバーのボランティア活動経験を元に、社会課題の解決を目的とする活動に適するプロジェクトマネジメント手法を開発し、「デザイン思考」、「ステークホルダー・マネジメント」、「ベネフィット・マネジメント」、「ポートフォリオマネジメント」、「ビジネスモデル・デザイン」、「アジャイル・マネジメント」の6要素からなる1日コースの実践ワークショップを2016年度から2年間連続で実施し、社会活動に関心を持つ多くの皆様に参加いただきました。

PMBOK® セミナー 第5版対応セミナー

より多くの方々に「PMBOK®ガイド」の概要を知っていただくため、「PMBOK®セミナー 第5版対応セミナー」を2日間コースで2017年3月(東京)と8月(京都)に開催しました。

本セミナーは「PMBOK®ガイド」の全体像を理解し

ていただくとともに、ツールとしての活用、プロジェクトマネジメントの枠組みの理解を解説するものになっています。PMBOK®セミナープログラムのメンバーが作成した「PMBOK®セミナー副読本第5版」を元に、「PMBOK®ガイド第5版日本語版」を随時参照し、Q&Aを交えながら第1章から第13章の全てを解説しました。



リスク・マネジメント・セミナー

リスク・マネジメント研究会では、2017年も引き続き『転ばぬ先の杖、現場で使うためのリスク・マネジメント』をテーマに10月にセミナーを開催しました。今回はより実践的な知識が得られるよう、いろいろな方からの意見を取入れて改善を図りました。

セミナーでは、「PMBOK®ガイド」を中心とした各リスク・マネジメント・プロセスを説明した後、それらをどう実践すれば良いかをIT系のケースシナリオを例に、自分がPM



にアサインされた立場でリスク・マネジメントを実施する想定で、ワークショップ形式でグループ演習を行いました。

PMOセミナー&ワークショップ

2017年もPMO研究会主催によるセミナー&ワークショップを開催し、参加者の方々と共に「今求められるPMOのありかた」を追求しました。

第1部「セミナー」ではPMO研究会の最近の状況把握に基づき、PMO組織のありかたや、重要な機能が何かをご説明しました。

第2部「ワークショップ」では、「ITプロジェクトで重要視されるPMOの取組み」、「ユーザー主導型プロジェクトでのPMOの関わり方」、「アジャイル導入時の課題とPMOの役割」、「製造業ならではのPMO」の4テーマに分かれて、PMOのあるべき姿、現状の課題などについてディスカッションしました。「アジャイル」への対応は、これからのPMOの重要テーマとして強い関心を持っていただきました。



ケースメソッド法によるPM実践力強化ワークショップ

ケースメソッドの企業導入を支援すべく、ケースメソッド法によるPM実践力強化ワークショップを実施しました。

ケースメソッド研修講師育成を目標として以下の3プログラムを設定しています。

- ①メソッドケース体験コース：6月29日開催
- ②ケース作成コース：8月23日開催
- ③ケースメソッド講師育成トレーニングコース：

9月28日、10月10日開催

参加者からは、「異種業界の方々とプロジェクトマネジメントに関する会話ができた」、「会長の話も分かりやすく、非常に良い研修でした。自分のやり方にも自信を持ってました」など、高い評価をいただきました。



COLUMN



ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会
清水 眞理

2017年夏より3回、SPM研究会のセミナーに参加させていただきました。私は広告や広報に関する企画、運営、ツール制作等の仕事に携わっていますが、ファンドレイジングに出会って、社会貢献に携わるNPO等の資金調達を目的とする伴走サポートをする仕事をクリエイティブの観点から始めてみようと思いはじめたところでした。

セミナーの内容は一般企業の先進的なプロジェクトマネジメント手法がベースで、初めて接する専門用語や進め方には、戸惑うこともありました。が、逆に私の持っているスキルと重なる点も多く、考え方の再認識・整理、アイデアの深化に繋がるものが多く、使えるところから実践させていただいています。

これからは、ベースとなるPM手法も少しずつ学び、より骨太なファンドレイジングの実践につなげたいと思います。

各種セミナー、ワークショップ

英語によるコミュニケーション・スキルアップ・ワークショップ

日本支部では2014年より3年間、中近東産油国中央省庁の次期リーダーおよび、インフラ構築プロジェクト技術者に対し、プロジェクトマネジメント&プロジェクト・リーダー研修を実施しました。また、2016年からは国内大手総合電機メーカー様の海外プロジェクト担当幹部に対して英語によるコミュニケーション・スキルアップ研修を実施してきました。



これらの経験を踏まえ、企業のグローバル・ビジネス/グローバル・プロジェクトのご担当の皆さまに対し、英語によるコミュニケーション・スキルアップ・ワークショップを開催しました。

- ①Managing Diversity編
- ②Conflict Management編
- ③Motivate and Build Trust in Teams編

次世代リーダーシップ・セミナー

急激に変化し続ける環境の中、今、「業務の枠組みの变革」をリードするリーダーシップが求められています。新たな顧客価値を提供することに挑戦し、变革を成功に導くためには、リーダーは、個人レベルおよび組織レベルで「自己变革の理論と実践方法」を理解しておくことが必要不可欠です。

これを受けて、アジャイルやデザイン思考の導入など、組織の变革に必要とされるリーダーシップを強化する新コースとして、「变革をリードする次世代リーダーシップ即戦力アップ～自己变革の理論と実践～」セミナーを開催しました。



ステークホルダー・マネジメント・セミナー

「PMBOK®ガイド 第6版から見えるステークホルダー・マネジメント・ツールの実践的活用の勘所」と題して、2017年11月にステークホルダー研究会主催の

セミナーを初開催しました。架空プロジェクトにて特定済みのステークホルダーを分類、優先順位付けを行うにはどのようにすれば良いのかを、「PMBOK®ガイド 第6版」にて初めて取り上げられた「ツールと技法」の一つである「ステークホルダー・キューブ」を使ったワークショップで体験・修得するものです。第5版からのアップデート内容の紹介を含めたショートセミナーで、第6版に新たに登場した技法を体験いただきました。

地域セミナー

戦略委員会のひとつである地域サービス委員会では、首都圏以外の地域在住の会員の方々へのサービス向上、地域コミュニティ活性化を目標に活動しています。

2017年は、地域セミナーの企画および実行を担い、全国9ヶ所(計10回)でセミナーを開催し、延べ350人以上の方々に応じいただきました。

2017年のセミナーの主テーマはPMI®が重要なテーマとしているアジャイルでした。アジャイルプロジェクトに関するアンケート結果を元にした解説により、日本のアジャイルプロジェクトの現状をご理解いただきました。また、プロジェクト・マネジャーの人材育成についての講演も組み込み、地域の皆様に有効な情報提供ができたと考えています。

オンライン・セミナー

プロジェクトマネジメントのスキルアップを目指す多くの方々に、セミナー開催日程やセミナー会場などの制約を受けないスキルアップ手段と機会を提供するもので、ご自宅PCやモバイル機器で受講いただくことを想定したプログラムです。

内容は過去の月例セミナーを中心に、全国各地で実施した地域セミナー等の録画で構成されています。2017年度は新たに「PMI Japan Festa2017講演」など5つの録画を付加して計32コンテンツとなり、多くのPMの方々に有効にご利用いただいています。



首都圏中心の支部会員による活動

地域サービス委員会

戦略委員会のひとつである地域サービス委員会では、地域の会員の皆様へのサービス向上、地域のコミュニティ活性化のために活動しています。

2017年は、地域セミナーの企画および実行を担い、全国9ヶ所(計10回)でセミナーを開催し、350人以上の方々に参加いただきました。セミナーの主テーマはPMI®でも重要なテーマとなっているアジャイルです。アジャイルプロジェクトに関するアンケートを元に、日本のアジャイルプロジェクトの現状が良くわかっていただけたと思います。また、プロジェクト・マネジャーの人材育成についての講演も組み込み、地域の皆さまに有効な情報提供ができたと考えています。



PMコミュニティ活性化委員会

日本支部会員のコミュニティ活性化を目標に、適切な情報配信、部会間交流・連携イベントの開催、リーダー育成等を行うものです。

4つのWG(①リーダーシップ推進、②情報発信、③部会連携、④ボランティア活動支援)を通じて、研究会・委員会等の部会(支部会員コミュニティ)の活性化を推進しています。2017年は、部会リーダー育成のためのリーダーシップミーティング「LM2017」を9月に開催しました。これは日本支部における重要な恒例イベントの一つとなって



地域サービス委員(関西担当) 成松 秀夫

職制がプロジェクト・アセッサーになったので、もっとたくさんのプロジェクト事例やノウハウに触れる必要があると思います。関西ブランチ運営委員会とPM実践研究会のボランティアに申し込みました。

実践ワークショップや事例研究を経験させていただき、プロジェクトマネジメントスキルの幅と深さが得られました。プロジェクトはユニークであり「これさえやればうまくいく」というものではありませんが、それぞれのプロジェクト実践事例からマネジメントとメンバーの叡智とマインドで成功に導くノウハウを知り、失敗経験を次のプロジェクトに活かすことを知ることができました。

プロジェクトマネジメントがあらゆる社会活動において必要で、「PMBOK®ガイド」がもっと世の中に認知されていくべきと思います。地域サービス委員になり関西エリアの大学、高専などの教育機関や行政、市民団体に「PMBOK®ガイド」を知ってもらう活動もさせてもらっています。プロジェクトマネジメントのスキルを学ぶだけでなく、教える機会もいただいています。

PMI日本支部の委員会や研究会でこのような機会に出会えたことに感謝します。

COLUMN

います。また、「部会リーダー交流会」を5回開催し、相互の活動内容の理解、連携の促進につながっています。



組織拡大委員会

日本支部の活動および、価値を訴求することによって、日本支部会員数の増加を行うものです。

新入会オリエンテーションは、東京(4回)に加え、大阪(1回)でも開催し、延べ100名以上の方に日本支部の活動を理解していただきました。また、日本フォーラムと法人SP連絡会でPMIの動向(BRM, PMITT, Agileなど)について講演しました。法人SP連絡会参加会社のPMI動向への対応状況の調査や個別ヒアリングなども実施しましたので、会員のBenefitを高める策を具体化して行きます。

国際連携委員会

PMI本部/他支部と連携し、日本支部の海外でのプレゼンス向上を図るとともに、最先端のグローバル情報を、日本支部法人スポンサー/個人メンバーに提供し、支部全体として活動レベルの向上を図ることを目的としています。

PMI本部資料の翻訳や海外でのプレゼンテーションなどを計画していますが、特に日本から情報を発信する際の視点、また国際的なプロジェクトマネジメントに関して、海外からの参加メンバーも多いIRC研究会と広く意見交換・連携することができました。

その結果、海外でのプレゼンス向上としてPMIムンバイ支部においてIRC研究会メンバーとともに日本のプロジェクトマネジメントの現場やトレンドについてプレゼンし、ムンバイ支部のメンバーと交流を行い、継続的意見交換、人材交換を行う礎を築くことができました。

教育国際化委員会

PMに関する知識・素養が「今後社会に求められる人材」のジェネリック・スキルであることをアカデミアに対して働きかけ、実現させることを目的としています。

2017年は2012年から継続中の「フォーラムにおけるアカデミック・トラックの設置」に加えて、日本支部ホームページにアカデミック・プログラムを追加し、ニュースレター発行など情報の蓄積・公開を開始しました。

新たな会議体としてアカデミックスポンサー校の先生方による「第一回アカデミック会議」を開催しました。

また、小中高、NPOに対するPM教育の普及を目指したPMI教育財団(PMI EF = PMI Education Foundation)のリエゾン支部として登録し、新たに国際連携チームを迎え活動を開始しました。

首都圏中心の支部会員による活動

標準推進委員会

PMIの標準書、実務ガイド等を調査、選択、邦訳し、日本のPMコミュニティへ提供しています。2017年は、「PMBOK®ガイド第6版」、組織のチェンジマネジメント、PMCDF、「PMBOK®ガイド」建設拡張版の翻訳と発行を目標としました。

主な成果は以下のとおりです。

- 組織のチェンジマネジメント翻訳および発行
- 「PMBOK®ガイド第6版」翻訳・監訳2018年1月発行
- PMCDFはPMコンピテンシー研究会に委託して翻訳中
- 「PMBOK®ガイド」建設拡張版は、PMAJとの協業にて翻訳中
- アジャイル実務ガイド翻訳済2018年1Qに発行予定
- 「How Successful Organizations Implement Change」を翻訳し、日本支部ホームページ上で紹介

IT研究会

IT業界におけるプロジェクト・マネジメントに関するベスト・プラクティスを研究しメンバーの研鑽を図っています。2017年度はITプロジェクト現場における Hints & Tips を取りまとめ、IT系若手プロジェクト・マネジャー向けガイドの作成を目標に活動しました。

2016年に続き2017年秋からは「PMBOK®ガイド 第6版」を活用し、日々のプロジェクト活動で生じる疑問相談・情報共有を座談会形式で実施し、Hints & Tipsのネタ収集を行いました。さまざまな経験を持つメンバー同士で議論を深めることができ、新たな気づきや成長につながりました。

今後も継続してコンテンツを蓄積し、プロジェクト・マネジャー向けガイドとして取りまとめていきます。



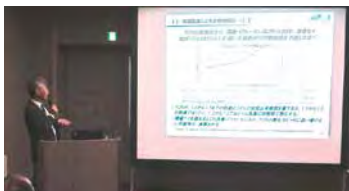
EVM 研究会

EVM (Earned Value Management) 研究会は、国内の事例研究や海外の最新論文研究を行い、毎年の成果を日本フォーラムで発表しています。2017年は、ES (Earned Schedule) について海外論文研究を行い、その成果を公開することを目標に活動しました。

ESに関する海外論文を翻訳して毎月の定例会で議論しました。その成果は日本フォーラムで『残作業指標 TCPI と TSPI の閾値についての信頼性とその戦略的活用』と題して発表しました。

ESに関する海外論文の翻訳と解説の資料は、関西ブランチの定量的PM事例研究会メンバーにも紹介しました。ESについての成り立ちを理解し、開発現場で実践する上で大いに役立つとの評価を得ています。

本研究会は2018年から「統合プロジェクト・



日本フォーラム2017での成果発表の様子

パフォーマンス・マネジメント研究会 (IPPM 研究会)」としてリニューアルします。

ポートフォリオ／プログラムマネジメント研究会

環境変化が激しい中、“しなやかな” 戦略実行の処方箋として、ポートフォリオ／プログラムマネジメント (PfM/PgM) を軸に、『社会課題・経営課題を解決するPM知の普及』への貢献を目的に活動しています。

PfM/PgM 標準 (第4版) に基づく体系的アプローチの研究や、他標準、ビジネスアナリシス、ベネフィットマネジメント等との関係性について研究するとともに、応用・適用事例を収集しました。

他団体との連携活動や、メンバー自身によるスタートアップ・所属企業での中期経営計画策定などへのPfM/PgMの応用実践活動を通し、幅広い領域での“経験に基づいた”知見を得ました。特にスタートアップでは、有志メンバーによるLLP (有限責任事業組合) を設立・事業を開始し、実践が伴ったPfM/PgMの有用性検証を開始しました。

また、PfM/PgM 標準第4版をはじめとする更新プロセスに積極的に参加し、各標準の公開草案レビューリストに当研究会メンバーが多数掲載されました。



日本フォーラム2017での発表

PM タレントコンピテンシー研究会

PM コンピテンシーおよび講師育成を図り、タレントトライアングルのコンピテンシーを研究・発表し、プロジェクトマネジメントの定着とPM育成提言を行います。

ショートケースを用いたPMコンピテンシーワークショップを2回開催しました。行動できるPMを育成するための実践的な場を提供し、多くの方から非常に高い評価をいただきました。また、PMI本部の“Pulse of the Profession”レポートと連動させた、プロジェクトマネジメントおよびプロジェクト・マネジャーのコンピテンシー育成に関するアンケート調査を実施し、統計データに基づく分析と研究レポート作成および日本フォーラムでの発表を行いました。

PMCDF 第3版がPMI本部で出版され、その翻訳プロジェクトを当研究会メンバーが開始しました。



研究会後の集合写真

組織的プロジェクトマネジメント研究会

OPM3®を中心に組織的プロジェクトマネジメント (OPM) の方法論を研究し、ベストプラクティスの普及・展開を目指して活動しています。

2017年はOPMに加え、広く組織全般のベストプラクティスの研究や、OPMとBRM (Benefit Realization Management)との関係性についても研究・議論を行いました。また、後半にはPMI本部より新OPM標準のドラフトが公開され、いち早く内容の習得と翻訳準備を行いました。



リスク・マネジメント研究会

日本におけるリスク・マネジメントの普及と、レベルアップに貢献することを目的とし、2017年は研究成果の外部への発信と、他部会との交流推進に注力しました。

日本フォーラムでは、CMMIやシステム×デザイン思考を取り入れた実践的なマネジメント手法や、プロジェクトの質の変化をとらえた新たなリスク・マネジメントをテーマに発表しました。また、一般の方々向けに恒例のワークショップ型セミナーを開催し、高い評価をいただきました。

他部会との交流も実現し、活動の幅を広げつつあります。



日本フォーラム2017にて

PMO 研究会

PMOのあるべき姿や実践に関する研究・情報発信を行い、日本のPMOの発展に貢献することを目的としています。2017年からアジャイルPMOや海外のPMOのノウハウ取得など、新たなワーキングも作り活動を進めました。

日本フォーラムでは、『「戦略的PMO・発展編」近年のPMOの動向とこれから』と題した発表を行いました。

また、恒例となったワークショップは例年同様参加者から高評価をいただき、PMO研究会の研究資産を蓄積することが出来ました。

有志メンバーにより実施した終日の研修会では、それぞれが関心のあるテーマを持ち寄り、月例会にも増して密度の濃い議論を行いました。

11月に米国ヒューストンで開催された「PMO シンポジウム2017」に参加し、アジリティについて理解を深め、日本フォーラムとは異なる雰囲気や参加者の活気に強い刺激を受けました。



ワークショップ当日のPMO研究会メンバー

PMツール研究会

PMのツールと技法を研究しています。2017年はビジネスモデル・キャンバスをアジャイルプロジェクトに活用することでプロジェクト成功率を向上させる方法を研究し発表しました。

「PMBOK®ガイド」にはブレインストーミングのようなツールや技法が紹介されています。しかし、単に知っているだけでは、適切に扱えません。我々は、どうすれば有効に活用できるのかを目的に活動しています。

2017年は、特にアジャイルで問題になっている「的確に要件を定義し共有する」について、マーケティングや経営の分野で注目されている「ビジネスモデル・キャンバス」および「バリュープロポジション・キャンバス」を用いて解決できることを日本フォーラムなどで発表しました。



討議の様子

女性コミュニティ WomenOBF

女性PMまたはPMを目指す女性が、自らの経験を元に、自分らしく活躍するための情報交換、研究を行うことを目的としたコミュニティです。2017年は「女性PMの活躍度UP」を活動テーマとしました。

プロジェクト現場で活躍する女性は増えてきましたが、女性だけではなくプロジェクトに関わる全ての方に関わる課題があります。それを踏まえ2017年は下記の活動を行いました。

- 日本フォーラムでは「女性PMの活躍度UPのためには？～男性・女性、双方の視点から考える～」と題して男性上司の役割を持つ方をお招きし、パネルディスカッションを実施しました。
- 「女性リーダーのヘアスタイル」と題し、美容室TAYAの店長をお招きし、講演いただきました。



日本フォーラムの発表会後の様子

PM教育研究会

教育分野におけるプロジェクトマネジメントの普及と啓発を目的に、大学・大学院へのPM講義実施を主テーマに活動しました。

大学院/学部/短期大学に対する講義を計6校に対して実施したほか、グローバル化対応のため英語PM講義にも取り組み、GACハンドブックの翻訳チェックも行いました。また、東京開催の工学教育研究講演会では、当委員会から1件発表しました。

啓発活動として工学教育の教員を対象にプロジェクトマネジメント教育についてのセミナーを実施し、高評価を得ました。さらに、ジュニア教育へのPM展開に向けた準備活動を開始しました。

プロジェクトマネジメント研究会

「PMBOK®ガイド」を含む諸標準の研究、現場プロジェクトへの適用貢献を目的に、2017年も組織を越え本音で議論する場を提供し、参加者のレベルアップを図ることを目標に活動しました。

2017年は、①「PMBOK®ガイド第6版」公開草案、②そこから読み取れるテーマの深掘り、を主な研究対象としました。



PM-ZENの風景、こんな雰囲気です。

第6版では、ベネフィット実現の意図を理解し、プロジェクトの実現価値が組織目的と整合性がとれるよう、プロジェクト・マネジャーに提案と監督の責任があることが明確化されています。これに関連するテーマで、日本フォーラムで講演しました。並行して、プロジェクトマネジメントに関して、現場の問題や悩みをぶつけ合いながら、気楽に議論するコミュニティ「PM-ZEN」を昨年に引き続き5回開催しました。缶ビール片手に、講師が出すテーマを元に、組織を越えて本音で議論しています。

ビジネスアナリシス研究会

ビジネスアナリシスに関する調査・研究を通じて、現場で活用できる具体的な手法を提供することで、その普及を図るものです。2017年は、モデリング手法についての研究を主軸に活動しました。

日本フォーラムでは「プロジェクトの成功に不可欠なビジネスアナリシス」と題して、その必要性や、「ビジネスアナリシス実務ガイド」の概略を発表しました。

月例の定例会では、深掘りした内容について広く紹介出来るよう、活動を進めています。特に、ビジネスアナリシス活動の中でも、スコープ・モデルに着目し、各モデリング技法がどの場面で、どう活用出来るか知るために、ストーリーを作りながら適用例を考えて研究を深めています。



定例会の様子

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

社会課題の解決に有効な6テーマのPM手法開発・ワークショップ主催、社会貢献活動での実践、社会活動の事例研究を通じ、2017年はソーシャルPMの認知度の向上、アクティブメンバーの拡大を目標に活動しました。

新手法を適用したソーシャルPM実践WSを合計9回(東京6回、名古屋2回、大阪1回)開催しました。延べ140人の受講者から良い評価をいただき、これを機に新たに14人が入会されました。また、ソーシャル



ソーシャルPM実践WS 演習の様子

PMの集いを2回実施し、手法開発・実践の知見を得ました。

被災地支援、地域振興を担う団体などのプロボノとして、社会貢献活動での実践によりPMノウハウを蓄積し、手法開発へフィードバックしました。さらに、ロジックモデルの推進、シニアPMクラブの立上げ、国際NGO向けのPM人材育成教材開発の支援を開始しました。

アジャイルプロジェクトマネジメント研究会

アジャイル プロジェクトマネジメントの普及と情報発信を目的とし、「アジャイルPMの意識調査」を日本フォーラムやアジャイル関連の外部イベントで報告することを目標に活動しています。

毎年継続して、①「アジャイルPMの意識調査」に基づく結果と提言を日本フォーラムにて発表(後にWebでも公開)、②PMI-ACP試験の受験・合格を目指す勉強会の実施、③外部主催のアジャイルイベントへの登壇や小冊子への寄稿等の情報発信、④IPAやJISA等の外部団体との連携と情報交換を行っています。

2017年はさらに、以下のように活躍の場を広げました。
○全国9都市10回開催の地域セミナーのメインテーマとしてアジャイルの講演(「地域サービス委員会」との連携)
○法人スポンサー連絡会でのアジャイルの講演
○IPAやJISA等の外部団体との連携と情報交換



地域セミナー(名古屋)での講演の様様

ステークホルダー研究会

プロジェクト現場で活用できるステークホルダー・マネジメントの手法を体得し、広く情報提供することを目的に活動しています。2017年は「PMBOK®ガイド 第6版」のプロジェクト・ステークホルダー・マネジメントの深層理解を中心に活動を行いました。

2016年から実施している「PMBOK®ガイド第6版」のExposure Draftの読解、内容分析を継続実施しました。また、第6版リリース後は、日本語版の内容について討論を行いました。

「PMBOK®ガイド第6版」の『ステークホルダーの特定』プロセスで、新たに取り上げられた『ステークホルダー・キューブ』の実践活用について検討しました。また、その検討結果を日本フォーラムにて発表しました。さらに、『ステークホルダー・キューブ』の活用方法について見識を広げるため、11月にワークショップ方式でセミナーを開催しました。



ステークホルダー・マネジメント・セミナーの様子

PM翻訳出版研究会

PMIが発行する実務標準や定期刊行物の翻訳、出版を通じて、PMI日本支部会員や国内PMコミュニティへの貢献を活動目的としています。

(1) PMI標準日本語化プロジェクト

○PMI日本支部 標準推進委員会主査のプロジェクトに当研究会から3名が参加。

成果物：「組織におけるチェンジマネジメント：実務ガイド」（2018年1月出版）

○「PMBOK®ガイド」建設拡張版 日本語化プロジェクト PMAJとのジョイントプロジェクトを標準推進委員会主査のもと、立ち上げ。

2018年12月完成を目標として活動中。

(2) 日本フォーラムでの発表

○「翻訳を通じて知るPMの理想像」と題しPMIや標準本や雑誌の紹介とタレント・トライアングルについて解説。

(3) 雑誌記事翻訳

○PMI発行のPM Network®を翻訳し、日本支部HPの会員向けサイトに掲載。



1月の合宿の様子

International Relationship Community, IRC 研究会

在日外国人と日本人PM達の、共通の関心を持った人々のための交流の場となることを目的に活動しています。2017年度はアクティブメンバーの拡大と、海外支部との交流発展・関係強化を目標に活動しました。

2017年は月次ミーティングを9回実施しました。その成果として、11月にインド・ムンバイ支部主催の「PMConclave17」に初参加し、日本代表として、「混乱の時代のプロジェクトマネジメント」として、東日本大震災後の復興とエネルギー・シフトの実例・取り組みを紹介しました。ムンバイ支部会長をはじめ支部の主要メンバーと交流し、継続して関係発展を目指すことで合意しました。



PMConclave17講演後の表彰式

関西ブランチ所属支部会員による活動

関西ブランチ 運営委員会

2017年は、研究成果発表会に加え関西研究会発足10周年セミナーや土曜セミナー等、発表機会を増やし講演者招聘を行う中で、関西ブランチ運営の外部発信と交流を通じて発展に寄与することを目標に掲げました。

大阪梅田のグランフロント・ナレッジサロンを拠点に関西ブランチの研究会代表と運営委員が協力しながらブランチ運営や企画を検討し、事務局機能を担っています。2017年は、関西の研究会発足10周年セミナーや関西土曜

PMBOK® セミナー・プログラム

「PMBOK®ガイド」を学習する機会を提供することを目的とし、「PMBOK®ガイド第5版」対応セミナーを開催しました。2017年は講師のスキルアップと「PMBOK®ガイド第6版」のテキストの改訂準備作業を行うことを目標に活動しました。

本プログラムで作成したオリジナルテキスト（PMBOK®セミナー 副読本 PMBOK®ガイド 第5版対応）を使用し、年2回のPMBOK®セミナーを開催し、好評を得ました（東京：3月、京都：8月）。

また、ベテランメンバーだけに頼らずに、講座全体レベルの維持向上を図れるよう、レベルに合わせた入念なリハーサルを行い、個々のメンバーのインストラクション能力の伸長を図りました。さらに、セミナーの講義内容を充実させるためQ&Aのレビューや最新動向を取り入れ、アジャイルなどに関する勉強会を行っています。



PMBOK®セミナー第6版対応テキスト検討会の様子

セミナー・プログラム

セミナーを通じてPMへのスキルアップ、人的ネットワークの形成機会の提供を目的としています。月例セミナー、Japan Festaに加え、2017年は他部会とのコラボレーションを目標に活動しました。

タレント・トライアングルのうち、一般のPM系セミナーでは受講機会が少ないリーダーシップ、ストラテジック&ビジネスマネジメントを主なテーマとして月例セミナーを全8回開催し、延べ参加人数936名、平均92%を超える高い満足度を得ました。

また、11月に開催したJapan Festa（2日間8講演）では、全国向けオンライン同時中継、部会アクティブメンバー価格の設定といった新施策を導入し、参加人数は2日間延べ838名で昨年より145名の大幅増となり、講演の評価も平均92%の高い満足度を得ました。中部および関西ブランチとの協業で、3月と9月にそれぞれセミナーを開催し両者とも高い満足度を得ました。



「Japan Festa 2017」の様子

セミナー（リーダーシップ）を開催し好評を得ました。

また、年末の成果発表会では、新入会員オリエンテーションと日程を合わせたことで支部副会長や理事、新規会員等多くの方に参加いただき多くの気付きを得ました。参加者間で活発な質疑や議論が交わされる中で次年度研究に向けた課題共有を図るなど、研究内容に深みをもたらす価値創造の場になっています。



関西ブランチ成果発表会 懇親会にて

関西ブランチ PM 実践研究会

実践研究によるプロジェクト成功率向上とプロジェクト・マネジャーの実践力向上を目的として活動しています。2017年はショートケースメソッドを用いたPM実践教育の実施方法の提案を目標に活動しました。

PM実践研究会発足10周年記念イベントを5月に実施し、「関西ブランチの未来を語ろう！」をテーマにワールド・カフェを行いました。また、ショートケースを用いた事例研究を行うことにより、PM実践教育の実施方法を考察しました。

その内容に元々、日本フォーラムで発表を行いました。さらに、10月に「ショートケースを用いたPM実践ワークショップ」を継続実施しました。ここでは奥澤会長にショートケースメソッドのミニレクチャーをお願いしました。参加者のアンケート結果からは、実践力の向上と多くの気づきを与えることができたことが確認できました。



定例会の様子(奥澤会長を囲んで)

医療PM研究会

医療プロジェクトマネジメント研究会は、教育プロジェクトに関する書籍出版を目標に活動し、2017年7月に「教育プロジェクトマネジメント～教育を変える国際標準マネジメント手法」(大学教育出版)を出版しました。

医療PM研究会は、プロジェクトとして見たチーム医療の形態と、教育現場の教学の形態の類似性に気づき、川崎医療福祉大学医療秘書学科・大学院(PMIアカデミックスポンサー)との共著で「教育プロジェクトマネジメント～教育を変える国際標準マネジメント手法」を7月に出版しました。副産物として、本来の医療で「治験・臨床研究」のプロジェクトマネジメントを具体的に実践的に進めようと、統合的なWBSの開発にも取り組みました。

医療PMで2017年に出版した書籍



IT 上流工程研究会

ビジネスアナリシスとプロジェクトとの関わり方を調査し、その融合に向けた提案によりIT業界をより良くすることを目指しています。2017年は、より広い知見を求め、他研究部会との連携強化を目標に活動しました。

2017年度は、ビジネスアナリシスの実践的な適用事例をテーマに、PM創生研との合同研究に取り組みました。両研究会の強みを活かしたシナジー効果により、議論や検討に新しい視点を取り入れることが出来ました。

具体的には、「プロジェクトにおけるビジネスアナリシ

ス手法の活用」、「プロジェクトとビジネスアナリシスの融合方法」といったテーマで研究し、その成果を日本フォーラムおよび関西ブランチ成果発表会で発信することができました。

今後もこうした横のつながりをさらに広げている、IT上流工程研究会ならではの学際的な提案を発信しつづけます。



関西ブランチ成果発表会での講演の様子

定量的プロジェクトマネジメント事例研究会

定量的データをプロジェクトマネジメントに活用するノウハウを収集する活動とCCPMの普及活動をしています。2017年は、参加メンバーのプロジェクトを題材に定量的PMを行う際の課題や成果を発表しました。

2017年の成果発表会では「アード・バリュー・マネジメントの基本と実践事例のご紹介」をテーマに講演しました。また、「真の学びは、議論を通じた意見の発信や気づきにある」をコンセプトに、各メンバーの関心テーマにおける情報共有と事例発表を目的とした事例共有会を定期開催(2017年は7回)しています。事例共有会は、他の研究会メンバーにも参加いただき多様な視点の意見やディスカッションを通じて、さまざまな価値観の交換や新たな気づきを得る学びの場となっています。



関西ブランチ成果発表会での講演風景

PM 創生研究会

「関西から世界に通用するPM(プロジェクト・マネジャー)を創生する」を新たなミッションとし、PMIタレント・トライアングルを実践する手法の研究とソーシャル活動の楽しさをPMに広めることを目標に活動しました。

毎月の定例会と秋合宿で、ビジネス価値やリーダーシップ等をテーマに発表を行い、議論を重ねました。また、ソーシャル活動体験からソーシャルPMの課題と解決策



秋の合宿(奥琵琶湖)での記念撮影

をまとめました。これらの成果は、「プロジェクトにビジネス価値を浸透させる方法」および、「社会課題解決のためにプロジェクトマネジメントができること」をテーマに日本フォーラムで講演しました。その他、ソーシャルPM研究会と合同でデザイン思考のワークショップを大阪で開催し、とても高い評価をいただきました。

2017年9月から「PMBOK®ガイド第6版」の輪講をしています。

中部ランチ所属支部会員による活動

中部ランチ 運営委員会

中部ランチの運営を行っています。2017年はランチ設立2周年記念イベントの実施、PMサロン/セミナー、研究会の継続的な活動の支援、日本フォーラムのリモート開催支援を目標に活動しました。

運営委員会は月1回のペースでWeb会議を開催しています。会議のテーマは前月の活動の振り返り、当月の活動計画、TODO事項の状況確認などPDCAサイクルで回し、活動を活性化しています。年間計画立案の作戦会議など重要な会議はFace to Face形式で行っています。会議終了後には交流会も行っており、コミュニケーションの充実を図っています。

魅力あるコミュニティの形成を目指し活動を続けており、活動内容は 日本支部のホームページの中部ランチ・ニュース、Facebookページにて情報発信しています。



運営委員会の様子

中部ランチ PMサロン/セミナー

マネジメントに関する情報共有の場を提供し、知識循環を起こすことで、地域における価値創出の支援を目標に活動しました。

PMサロン/セミナー部会では、中部地区における会員サービスの向上、新規会員の掘り起こしに向けて日本支部や各部会と連携してイベントを開催しました。東京月例セミナーの横展開、他部会との連携イベント、外部講師によ

るPMサロンなど、さまざまなイベントを開催したことで、昨年度の約3倍の新規参加者を得ることができました。

2018年も引き続き連携イベントを開催し、会員サービスの向上および中部地区の発展に貢献していきます。



PMサロンの様子

中部ランチ 地域ソーシャルマネジメント研究会

地域の活性化や社会的な課題の解決に向けプロジェクトマネジメントがどのように貢献できるかを考え実践する研究会です。2017年はソーシャル活動「実践」の足掛かりを掴むことを目標に活動しました。

今年度、手法を学びながら中部地域で社会課題解決に幅広くかつ先進的に取り組んでいる豊田市の活動に注目し、「おいでん・さんそんセンター」の地域支援活動状況の調査のほか、中部ランチ2周年記念セミナーにて「環境先進都市を目指す豊田市の取り組み」を講演いただくなど関係構築を行い、「実践」の足掛かりを掴むことができました。



中部ランチ設立2周年記念特別セミナーに向けた豊田市担当者との打ち合わせ

法人スポンサー社員による活動

人材育成スタディ・グループ

プロジェクト・マネジャーに必要な人間力に着目し、実践で役立つ成果物の作成を目的に活動しています。

2017年は、『プロジェクト・マネジャーの人間力強化書「熱い思いでマネジメントせよ」』を公開しました。これは若手プロジェクト・マネジャーが、さまざまな問題に直面し悩みながらも成長していく、7つの物語で構成されています。望ましい行動を具体的に提示し、必要な行動特性のヒントを示唆し、自発的な“気づき”を促すというストーリーです。この物語を読んだ方が共感を得て、後輩の指導または、自分自身の成長に役立てていただければ幸いです。

現在は、現場のプロジェクト・マネジャーが困っている、まさにその時、困難を打開するヒントになるような手引書「今日から使える人間力活用術(仮称)」の公開を目指しています。



日本フォーラムでの発表後

若手PM育成スタディ・グループ

若手PM育成を目的に、①PM候補者選定ポイント・方法、②Mのモチベーション維持の方法、③若手PMを育成する方法に分けて検討しています。第2テーマを2016年に検討終了し、2017年は第3テーマについて検討しています。

現場で使えるより実践的な方法、ツールを生み出し日本のPM育成に貢献することを目標に、若手をターゲットとして「①PMに育つまで待てない(PM候補者選定ポイント・方法)」、「②PMになりたがらない(モチベーション維持・向上)」、「③良い育て方がわからない(効果的な若手PM育成方法)」について討議・検討しています。

2017年までの成果として、テーマ②「PMモチベーション維持・向上行動規範(ステークホルダ別)」を日本フォーラムで発表しました。また法人スポンサー様に公開中です。

第一線PM実践力強化スタディ・グループ

2017年も引き続きPM実践力強化に関する調査研究を行いました。具体的には英国政府系プロジェクトマネジメント手法であるPRINCE2™についてPM実践力に関するノウハウを学ぶことを活動目的としました。

「成功のためのプロジェクトマネジメント手法 PRINCE2™(日本語版)」をSGメンバで輪読し要約リストを作成しました。そのうえで、既にある「PMBOK®ガイド」との比較研究資料(Klas Skogmar氏White Paper等、国内外にあり)を参考にして差異の観点リストを作成しました。次に、この差異観点を基に再度PRINCE2™本書を読み込み、PM実践力のノウハウの抽出を行って、具体化リストを作成しました。

なお、PM実践力のPMの意味をプロジェクト・マネジャーの役割に限定せず、広く組織の各役割の範囲で捉えて、プロジェクトマネジメントの実践力を発揮できることが分かりました。

PMコミュニティ・スタディ・グループ

「PMコミュニティがPMを変える ～惹かれるPMコミュニティのつくりかた～」をスローガンとし、2017年度は、事例調査を通じてPMコミュニティの目的・狙いの整理、メニュー、立ち上げ、運営方法の目的・狙いに紐付けた整理を目標に活動しました。

参加企業各社(13社)の事例研究を通して、各企業が

どんな目的や狙いで「PMコミュニティ」を立ち上げ、または立ち上げようとしているのかを、各社の事例紹介と質疑で共有し整理を行ってきました。

また、事例を共有するにあたり参加企業各社の関心事項をアンケート質問の形でまとめ、情報共有しやすいように整理し、実際に自己回答することで質問の妥当性の評価もできました。

2017年は、目的・狙い、メニュー、立ち上げ、運営方法それぞれの整理を終えたので、2018年にはアンケートを実施し、それらの関係性を導き提言まで行う予定です。



目的・狙い整理の討議の様子

ケースメソッド・スタディ・グループ

PMの育成方法としてケースメソッドが注目されている状況を受け、書籍やセミナーから得られる一般的な知識とは一線を画すスタディグループならではのケースメソッド研修を探るため、2017年11月にキックオフしました。

2017年は目標設定から議論をはじめ、検討のポイントを《ケースメソッドの》①研修目的の明確化、②事例の作成、③ケースの作成、④研修の実施、という4つの機能に整理しました。機能ごとに「一定の品質のケースメソッドを行えるようになる」ための材料や方法論をこれからまとめていきます。並行して調査やノウハウの検討を実施するには範囲が広くなりすぎるため、2018年はそれぞれをサブワーキング化し、連携しながらメンバーの得意分野を深化させていく予定です。



ケースメソッド・スタディ・グループのメンバー



法人スポンサー「PMコミュニティ・スタディ・グループ」 本間 淳

2016年のPMコミュニティSGの発足から参加させていただいています。

SGの良いところは、様々な経験を持った人と一緒に活動ができることです。私自身も現場においてPMのコミュニティ活動を進めるにあたって課題もあり、悩んでいたところでした。そのような状況の中で、このSGの立ち上げを知り、早速参加させていただきました。

月1回の会合では参加者の活発な意見交換や、各企業でのPMコミュニティの状況や課題などを共有でき、有意義に過ごしております。まだ、活動を開始してから1年と少しですので、今からでも参加できます。

PMコミュニティ活動に関心を持たれている方は、是非ご参加をご検討ください。きっと役に立つと思います。お待ちしております。

COLUMN

各種情報の発信

ホームページは、日本支部の活動を支える重要な媒体で、2017年は約12万件/月のアクセスがありました。

各種セミナーの告知・エントリー処理、書籍販売・決済、PMI本部発刊記事の翻訳記事の紹介、ニュースレターの掲載、海外コンgres出張やセミナーの開催時の結果報告、日本支部会員・法人スポンサー社員向け専用ページなど、さまざまな情報発信に活用しています。

注目度・閲覧数が多いことから、バナー設置による企業広告や関係団体のイベント告知にも活用いただいています。

ターゲットを絞ってタイムリーな情報を提供するFacebookページと連携させ、会員をはじめとしたステークホルダーの方々に有効に活用いただいています。



ダウンロード・ツール

日本支部の各部会が成果品として作成したテンプレートを会員の方々が実務で活用いただけるよう公開し、ホームページを通して無料ダウンロードいただいています。テンプレートは、使用された方々からの意見を基に逐次ブラッシュアップを行っています。2017年は、日本支部会員の方々に①～③を、法人スポンサー社員の方々に③をご利用いただきました。

① 「PMBOK®ガイド 第5版」対応 テンプレート集 (PMBOK®委員会)

2億円程度の中規模ITプロジェクトのマネジメントを想定したテンプレート(37種類のテンプレートと9種類のテンプレート・ガイド)



② リスク・マネジメント テンプレート (リスク・マネジメント研究会)

- ◆ リスクの発生確率影響度の定義
- ◆ リスク・マネジメント役割分担リスト
- ◆ リスク記述票
- ◆ リスク登録簿

◎:対応策実施中,○:監視中
* :課題発生,x:管理外
#:終了

No.	状況	リスク (要因・事象・影響)	リスクオーナー	特定日	リスク特定				定性的リスク分析		計画
					発生確率	影響度	リスクスコア	リスク等級			
1	◎	W社の見積りによる計画のため、生産性が発揮できない可能性があり、全体計画に遅延影響が発生する。	PM	3/1	3	4	12	H	3/2		
2	◎	要求仕様書が文書表現のみであり、要求事項も不十分であるため、追加要求が収まらない可能性があり、コストオーバーの影響が発生する。	PM	3/1	3	4	12	H	3/2		

③ PMCDF 関係 (法人スポンサー 人材育成スタディ・グループ)

- ◆ PMCDF 副読本 第1版
- ◆ PMCDF 副読本 第1版 付録「人格コンピテンシーチェックシート」
- ◆ プロジェクト・マネジャーの人間力強化書「熱い思いでマネジメントせよ」第1版 (PMCDF 実践研究会)
- ◆ PMのコンピテンシー改善に向けた調査報告書2016年版



日本支部のオンライン・ブックストアでは、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)第6版日本語版』をはじめとするPMI®標準の日本語訳や、PMP®受験やPMスキルの向上に役立つ書籍を販売しています。

URL: <https://www.pmi-japan.org/bookstore/>

プロジェクトマネジメント知識体系ガイド (PMBOK®ガイド) 第6版日本語版



著者：PMI
発行：PMI
発行年：2017年

『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)』は、PMIの最重要刊行物であり、産業に関わらず効果的なプロジェクトマネジメントを実施するための基本的なリソースです。定期的に改訂され、プロジェクトマネジメントにおける最新のグッド・プラクティスを反映しています。

第6版で新しくなった事項

- ・ アジャイル環境で「PMBOK®ガイド」のアプローチを実践するためのノウハウ
- ・ 動向および最新のプラクティス
- ・ テーラリングについての配慮
- ・ 戦略とビジネスに関する知識をさらに重要視
- ・ プロジェクト・マネジャーの役割についての章を新しく追加

組織のチェンジマネジメント：実務ガイド



著者：PMI
監訳：PMI日本支部
発行：PMI日本支部
発行年：2017年

『組織のチェンジマネジメント：実務ガイド』によって、プロジェクト・マネジャーやプログラム・マネジャーが以下を行うのが容易になります。

- ・ プロジェクトやプログラム計画内の変革要素を特定し説明する
- ・ 明確で力強い戦略を立て、組織の発展をガイドする
- ・ 戦略を確実に効果的に実行する

実務者のためのビジネスアナリシス：実務ガイド



著者：PMI
監訳：PMI日本支部
発行：PMI日本支部
発行年：2016年

組織は、依然、ビジネス・アナリシス・プラクティスのコア・タスクである要求関連活動のパフォーマンスが悪いことが原因で、プロジェクトの問題を抱えています。PMIが出版しているPulse of the Profession®調査によれば、要求プラクティスを満足に実施できないことがプロジェクトの失敗の最大要因となっています。

『実務者のためのビジネスアナリシス：実務ガイド』により、要求やビジネス・アナリシスに関連するプロジェクト問題への取組みが容易になります。ビジネス・アナリシスや要求関連の仕事を担当しているならば、役割、役職、産業に関わらず、顧客の期待に応えビジネス・バリューを生むソリューションを提供するための実践的な助言が得られます。

決算報告

貸借対照表

平成29年12月31日現在
(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】	139,926,801	【流動負債】	42,277,294
現金及び預金	111,928,904	買掛金	5,961,407
売掛金	12,849,287	未払費用	5,157,896
商品	6,849,880	未払法人税等	2,989,900
貯蔵品	386,640	未払消費税等	2,015,700
前払費用	2,422,855	前受金	25,336,780
未収入金	5,489,235	預り金	815,611
【固定資産】	3,778,092	負債の部合計	42,277,294
【有形固定資産】	966,864	純資産の部	
建物附属設備	718,286	【株主資本】	101,427,599
工具器具備品	248,578	基金	55,000,000
【無形固定資産】	109,788	利益剰余金	46,427,599
電話加入権	37,600	その他利益剰余金	46,427,599
ソフトウェア	72,188	繰越利益剰余金	46,427,599
【投資その他の資産】	2,701,440	純資産の部合計	101,427,599
敷金	2,701,440	負債及び純資産合計	143,704,893
資産の部合計	143,704,893		

損益計算書

自 平成29年 1月 1日
至 平成29年12月31日
(単位：円)

科目	金額	
【売上高】		
売上高	127,084,798	
会費収入高	21,343,189	
売上高合計		148,427,987
【売上原価】		
期首商品棚卸高	7,573,772	
書籍関連原価	12,641,660	
セミナー関連原価	37,697,645	
その他原価	6,772,884	
合計	64,685,961	
他勘定振替高	32,592	
期末商品棚卸高	6,849,880	
売上原価		57,803,489
売上総利益		90,624,798
【販売費及び一般管理費】		
販売費及び一般管理費合計		79,525,688
営業利益		11,098,810
【営業外収益】		
受取利息	953	
雑収入	898,201	
営業外収益合計		899,154
【営業外費用】		
雑損失	20,000	
営業外費用合計		20,000
経常利益		11,977,964
【特別損失】		
寄付金	229,550	
特別損失合計		518,475
税引前当期純利益		11,459,489
法人税・住民税及び事業税		3,364,740
当期純利益		8,094,749

理事・監事名簿

2017年12月31日現在

名前	役職	所属
奥澤 薫	会長	KOLABO 代表
片江 有利	副会長	株式会社 プロシード 事業開発部長、シニアコンサルタント
端山 毅	副会長	株式会社 NTTデータ 技術革新統括本部シニアスペシャリスト
麻生 重樹	PMコミュニティ活性化担当	日本電気 株式会社 金融システム開発本部 システム主幹
井上 雅裕	教育国際化担当	芝浦工業大学 副学長、システム理工学部教授
浦田 有佳里	企画、地域サービス担当	株式会社 HS情報システムズ システム部 システム業務改革課 専門役
木南 浩司	地域サービス担当	株式会社 マネジメントソリューションズ 執行役員
斉藤 学	教育国際化担当	スカイライト コンサルティング株式会社 シニアマネージャー
杉村 宗泰	国際連携担当	日本マイクロソフト 株式会社 エンタープライズサービス部門 SQA/PMO マネージャ
鈴木 安而	ミッション、標準担当	PMアソシエイツ株式会社 代表取締役
高橋 正憲	PMコミュニティ活性化担当	PMプロ 有限会社 代表取締役
竹内 正興	PMコミュニティ活性化担当	一般財団法人 国際開発センター 理事長
武上 弥尋	ミッション、組織拡大担当	日本アイ・ピー・エム株式会社 Associate Partner
当麻 哲哉	PMコミュニティ活性化担当	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授
徳永 幹彦	組織拡大担当	株式会社 日立インフォメーションアカデミー サービス企画部主管コーディネータ
中嶋 秀隆	標準担当	プラネット株式会社 代表取締役社長
福本 伸昭	国際連携担当	日本アイ・ピー・エム株式会社 グローバル・ビジネス・サービス 執行役員
三嶋 良武	財政担当	株式会社 三菱総合研究所 社会ICT事業本部 シニアITアーキテクト、 兼 政府CIO補佐官(国土交通省担当)
森田 公至	企画、組織拡大担当	日本アイ・ピー・エム株式会社 GTS事業本部 金融インダストリー&システムズ 担当部長
除村 健俊	国際連携、標準担当	株式会社 リコー 理事、ビジネスソリューション事業本部 ビジネス開発センター所長
平石 謙治	監事	ピー・ティー・ジー・インタナショナル 代表
渡辺 善子	監事	株式会社 日本政策金融公庫 社外取締役
神庭 弘年	監事/PMI リージョン9メンター	神庭 PM 研究所 代表



スポンサー一覧

法人スポンサー (109社)

(五十音順)

アイアンドエルソフトウェア株式会社
アイシンク株式会社
株式会社アイ・ティー・ワン
株式会社アイ・ティ・イノベーション
株式会社アイテック
株式会社アイ・ラーニング
株式会社アジャイルウェア
International Institute for Learning Japan K.K.
Innova Solutions, Inc.
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
株式会社インテック
株式会社インテージテクノスフィア
株式会社HGSTジャパン
株式会社HS情報システムズ
MS&ADシステムズ株式会社
NCS&A株式会社
NDIソリューションズ株式会社
NECネクサソリューションズ株式会社
株式会社NSD
株式会社NTTデータ
株式会社NTTデータ アイ
株式会社NTTデータ関西
株式会社NTTデータ ニューソン
SCSK株式会社
株式会社エクサ
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
株式会社 エル・ティー・エス
株式会社大塚商会
株式会社オーシャン・コンサルティング
関電システムソリューションズ株式会社
キャノンITソリューションズ株式会社
クオリカ株式会社
株式会社クレスコ
Kepner-Tregoe Japan, LLC.
株式会社建設技術研究所
株式会社神戸製鋼所
コンピューターサイエンス株式会社
コベルコシステム株式会社
JBCC株式会社
株式会社 JSOL
株式会社ジェーエムエーシステムズ
株式会社シグマクス
株式会社システムインテグレート
株式会社システム情報
システムスクエア株式会社
株式会社 シティアスコム
情報技術開発株式会社
新日鉄住金ソリューションズ株式会社
住友電工情報システム株式会社
セブンスカイズ株式会社
SOMPOシステムズ株式会社
ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
ソフトバンク・テクノロジー株式会社
第一生命保険株式会社

TAC株式会社
株式会社タリアセンコンサルティング
千代田システムテクノロジー株式会社
TDCソフト株式会社
TIS株式会社
株式会社TRADECREATE
東芝テック株式会社
東芝インフォメーションシステムズ株式会社
株式会社トヨタコミュニケーションシステム
株式会社東レシステムセンター
日揮株式会社
ニッセイ情報テクノロジー株式会社
日本アイ・ピー・エム株式会社
日本アイ・ピー・エム・ビズインテック株式会社
株式会社日本ウィルテックソリューション
日本クイント株式会社
日本自動化開発株式会社
日本証券テクノロジー株式会社
日本情報通信株式会社
日本電気株式会社
日本電子計算株式会社
日本ビジネスシステムズ株式会社
日本ヒューレット・パッカード株式会社
日本プロセス株式会社
日本マイクロソフト株式会社
日本システムウェア株式会社
日本ユニカ・システムズ株式会社
日本ユニシス株式会社
株式会社ネクストスケープ
株式会社野村総合研究所
パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社
ビジネステクノクラフツ株式会社
株式会社ビジネス・ブレイクスルー
日立INSソフトウェア株式会社
株式会社日立インフォメーションアカデミー
株式会社 日立産業制御ソリューションズ
株式会社 日立システムズ
株式会社日立製作所
株式会社日立ソリューションズ
日立物流ソフトウェア株式会社
富士ゼロックス株式会社
株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
富士電機株式会社
プラネット株式会社
株式会社マネジメントソリューションズ
三菱スペース・ソフトウェア株式会社
三菱総研DCS株式会社
株式会社三菱総合研究所
三菱電機株式会社
株式会社ラック
ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
株式会社リコー
リコージャパン株式会社
株式会社ワコム

アカデミック・スポンサー (40組織)

(五十音順)

青山学院大学 国際マネジメント研究科
明石工業高等専門学校建築学科大塚研究室
愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
大阪府立大学 21世紀科学研究機構 産学協同高度人材育成センター
鹿児島大学産学官連携推進センター
金沢工業大学
川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
九州大学大学院芸術工学府 デザインストラテジー専攻
京都光華女子大学
京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
神戸女子大学 家政学部家政学科
サイバー大学
札幌学院大学
サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
産業技術大学院大学
芝浦工業大学
就実大学 経営学部 経営学科
国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
中央大学 文学部 社会情報学専攻
中京大学 情報センター
学校法人 中部大学 経営情報学部
筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
東京工科大学 大学院 コンピュータサイエンス専攻
公立大学法人公立はこだて未来大学
国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
広島修道大学経済科学部
公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
法政大学専門職大学院 イノベーション・マネジメント研究科
北陸先端科学技術大学院大学 知識マネジメント領域
北海道情報大学
北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター
北海道大学 大学院情報科学研究科
山口大学工学部知能情報工学科
山口大学大学院技術経営研究科
早稲田大学ビジネススクール
早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科

行政スポンサー (2組織)

三重県桑名市
滋賀県大津市役所 市民部

2017年12月31日現在

商標等について

「PMI」とPMIのロゴ、「PMP」、「PMBOK」、「PgMP」、「Project Management Journal」、「PM Network」、「PMI Today」および「OPM3」は、Project Management Institute Inc. (以下PMI Inc.)の登録商標です。

一般社団法人 PMI 日本支部

〒103-0008

東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL:03-5847-7301

FAX:03-3664-9833

<https://www.pmi-japan.org/>

info@pmi-japan.org

